

調査結果の概要

- ・比率の単位は「%」、実数の単位は「世帯」又は「人」である。
- ・百分率は少数点以下第2位を四捨五入してあるため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。
- ・統計表中、用いた記号は次のとおりとする。
「0.0」 …四捨五入により数値を丸めた結果、表示すべき最下位の1の位に達しない場合
「-」 …皆無又は該当数字なし
- ・クロス集計表の表側で「その他」等の母数の少ないデータは一部省略したものもある。
- ・本文の表中の数値に付けた下線は記述に関連することを示す。
- ・「29年度調査」とは、「平成29年度 東京都福祉保健基礎調査（東京の子供と家庭）」をいう。

第1部 世帯と子供の状況

第1章 調査対象世帯の概況等

小学生までの子供を養育する両親世帯 4,800 世帯と 20 歳未満の子供を養育するひとり親世帯 1,200 世帯のうち、回答のあった小学生までの子供を養育する両親 2,565 世帯及び 20 歳未満の子供を養育するひとり親 448 世帯を合わせた 3,013 世帯の概況並びにその父母（養育者） 5,578 人と子供 5,360 人の概況について述べる。

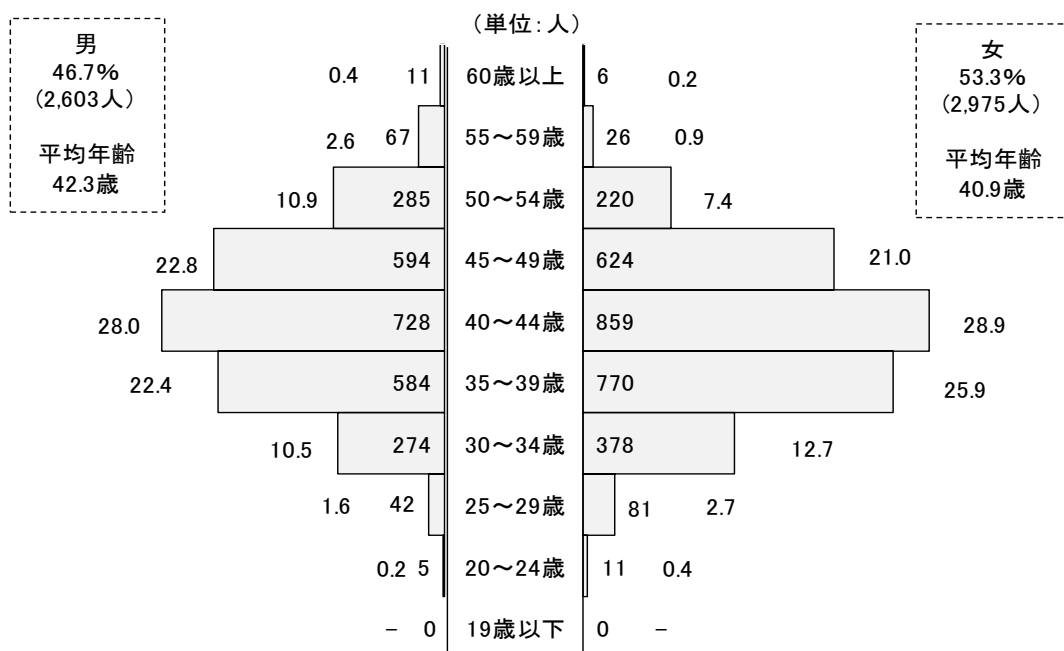
1 父母の状況

(1) 父母の状況－性・年齢階級別

父母の人数を年齢階級別にみると、男女ともに「40～44 歳」が最も多く、男性は 728 人、女性は 859 人となっている。父母の平均年齢は男性 42.3 歳、女性 40.9 歳である。

（報告書 p.13 図 I-1-1）

図 I-1-1 父母の状況－性・年齢階級別



(注) 男性の合計が 100%にならないのは、父親の年齢無回答の人がいるためである。

また、男性 2,603 人には、年齢無回答の人を含むため、内訳の合計と一致しない。

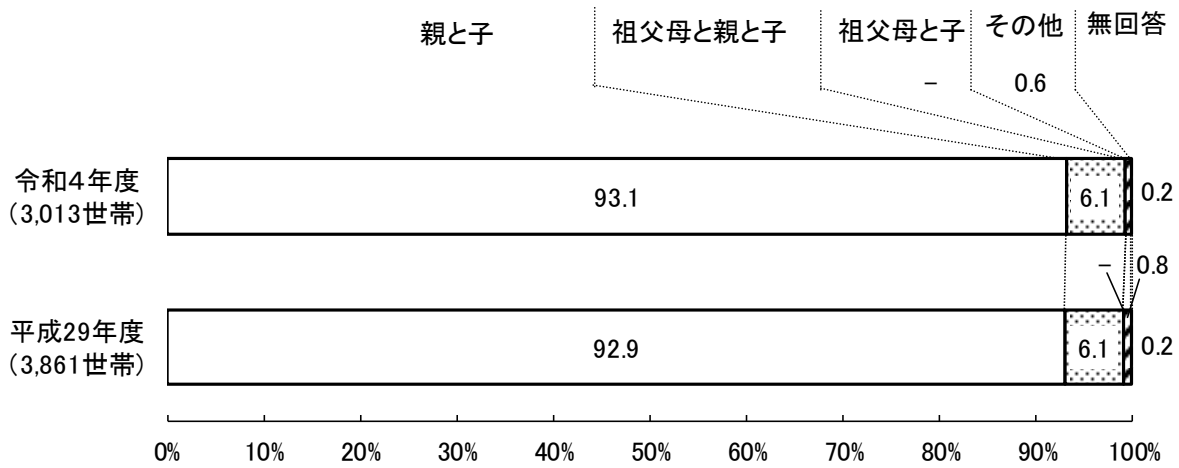
2 世帯の状況

(1) 家族類型－29年度調査との比較

「親と子」が9割超

家族類型は、「親と子」の割合が93.1%、「祖父母と親と子」が6.1%となっている。
 (報告書 p. 16 図 I-1-3)

図 I-1-3 家族類型－29年度調査との比較

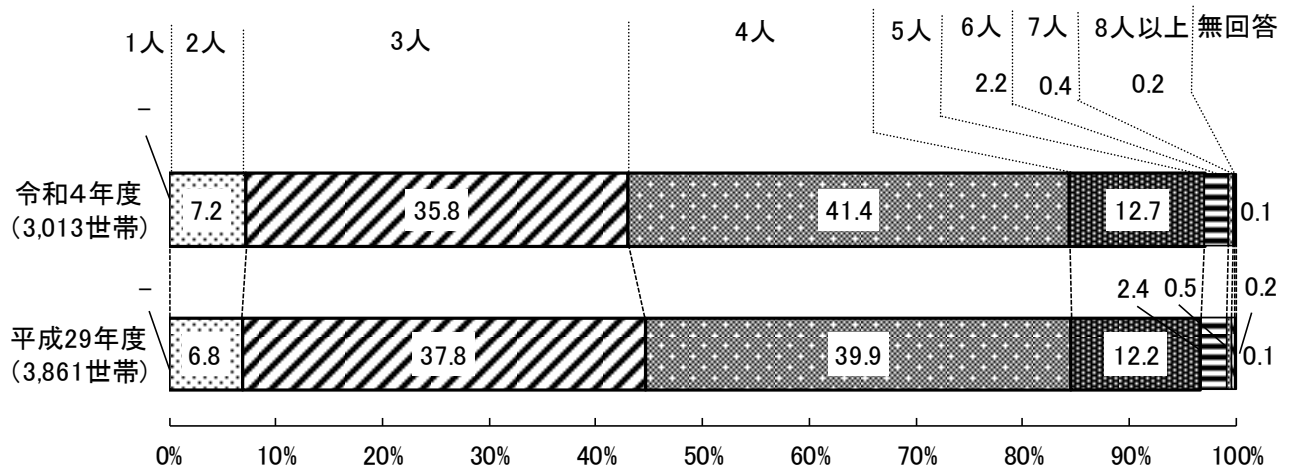


(2) 世帯人員－29年度調査との比較

「4人」の割合が最も高く、約4割

世帯人員は、「4人」の割合が41.4%で最も高く、次いで「3人」が35.8%となっている。
 (報告書 p. 16 図 I-1-4)

図 I-1-4 世帯人員－29年度調査との比較



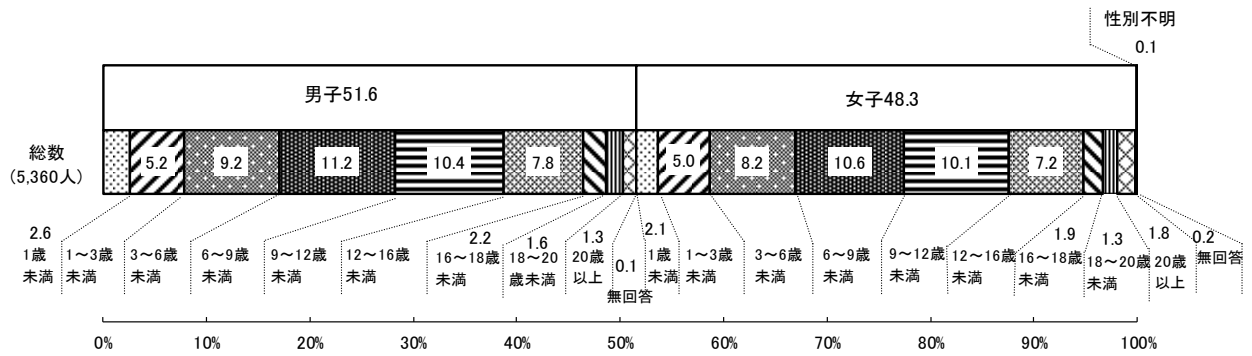
3 子供の状況

(1) 子供の状況—子供の性・年齢階級別

調査世帯の子供の総数は5,360人で、男子51.6%、女子48.3%である。

(報告書 p. 17 図 I-1-5)

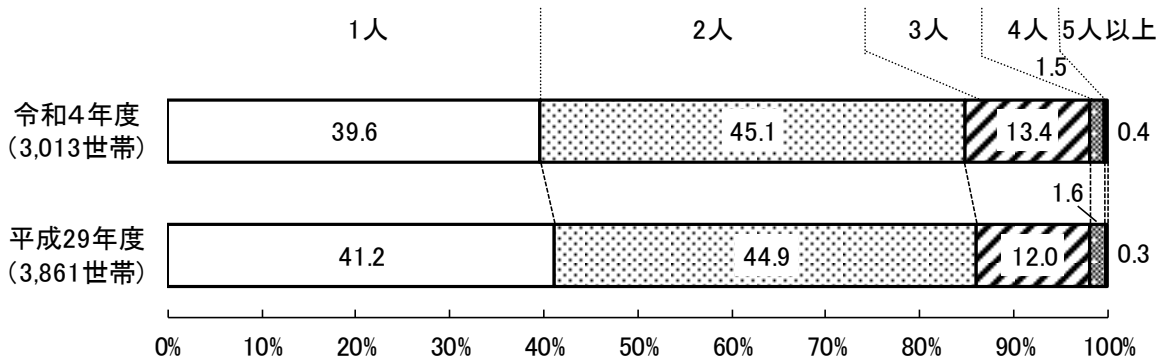
図 I-1-5 子供の状況—子供の性・年齢階級別



(2) 子供の人数—29年度調査との比較

世帯の子供の人数は、「2人」の割合が45.1%で最も高く、次いで「1人」が39.6%となっている。(報告書 p. 17 図 I-1-6)

図 I-1-6 子供の人数—29年度調査との比較



4 住居の状況

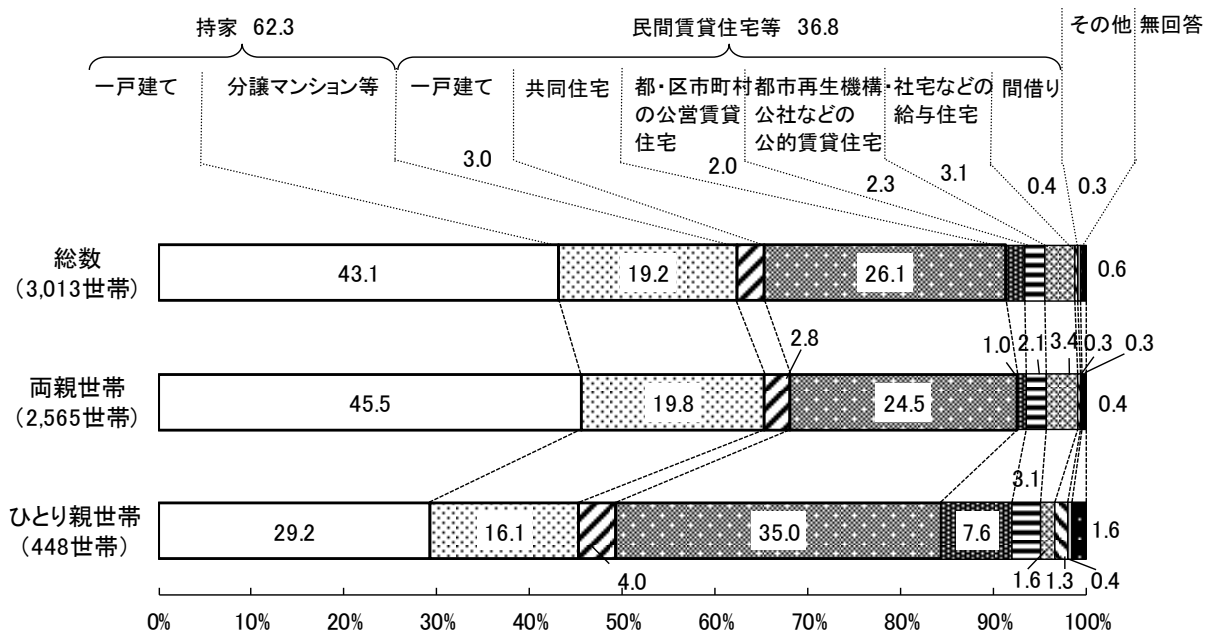
(1) 住居の種類－両親の有無別

両親世帯では「持家（一戸建て）」、ひとり親世帯では「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が最も高い

住居の種類を両親の有無別にみると、両親世帯では「持家（一戸建て）」の割合が45.5%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が24.5%となっている。

一方、ひとり親世帯では「民間賃貸住宅（共同住宅）」の割合が35.0%で最も高く、次いで「持家（一戸建て）」の割合が29.2%となっている。（報告書 p. 21 図 I-1-11）

図 I-1-11 住居の種類－両親の有無別



5 父母の就労状況

(1) 就業状況

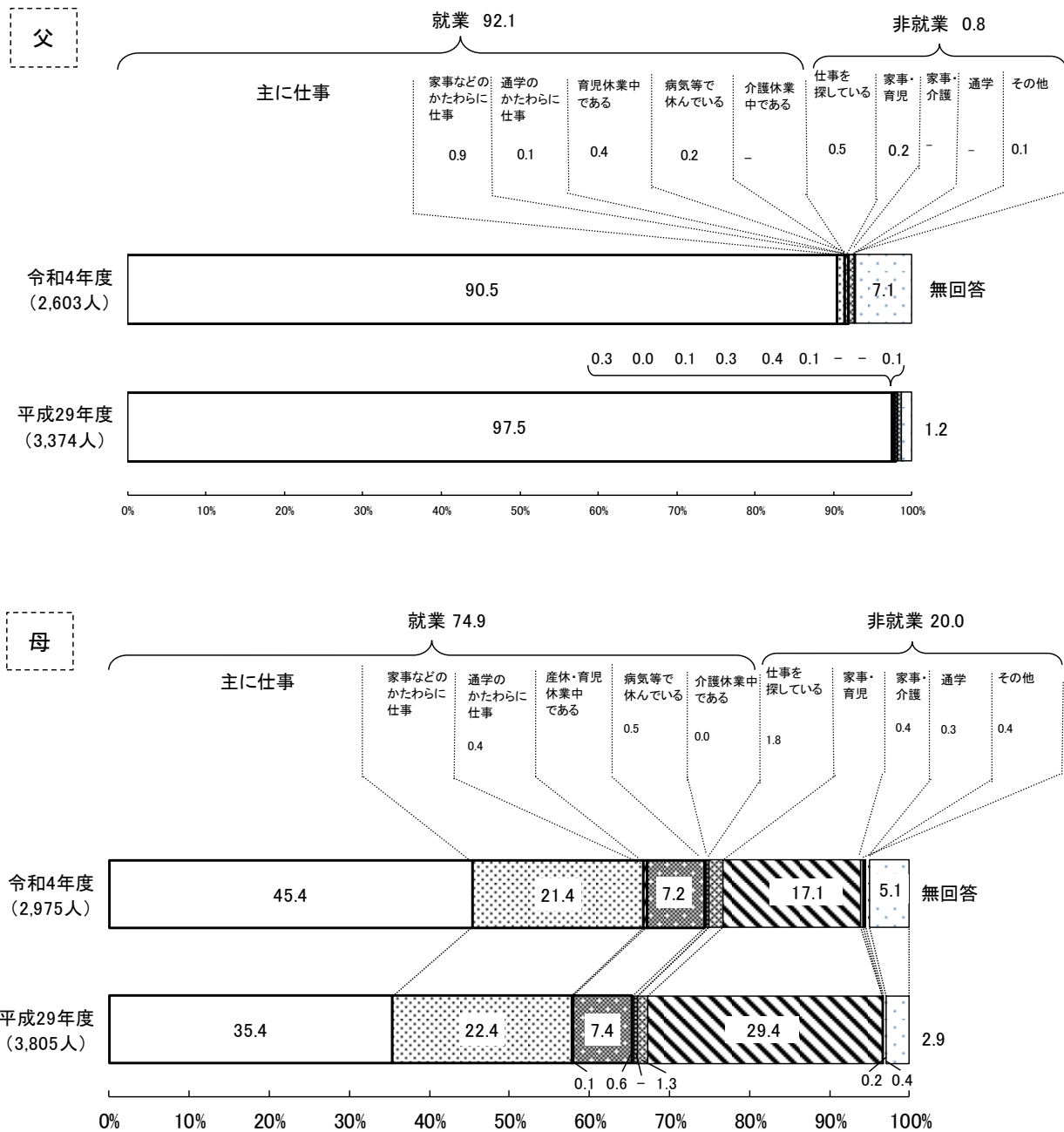
母の「就業」の割合は、7割超

「就業」の割合は、父が92.1%、母は74.9%となっている。(報告書 p.23 図 I-1-12)

(注)「就業」している人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」「育児休業中である」「病気等で休んでいる」「介護休業中である」と回答した人である。

また、「介護休業中である」と「家事・介護」は令和4年度調査で新たに追加した選択肢である。

図 I-1-12 就業状況-29年度調査との比較

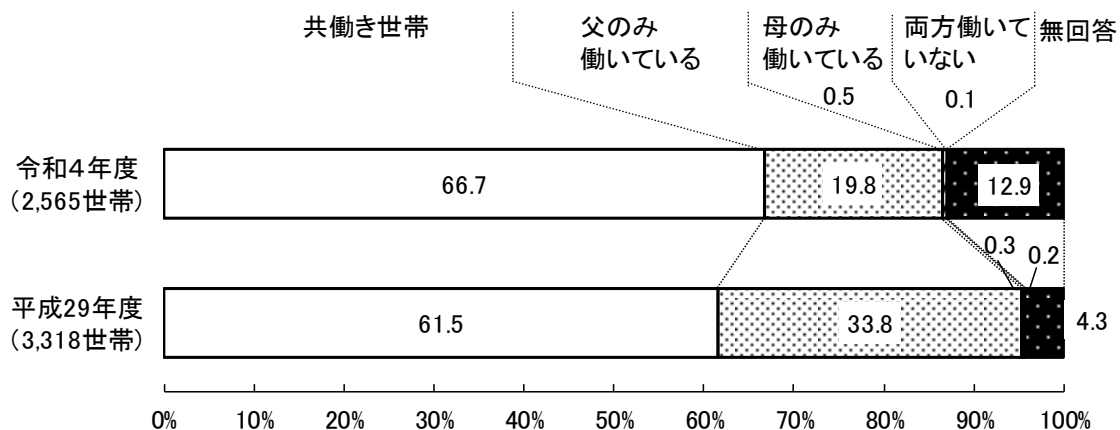


(2) 共働きの状況－29年度調査との比較

「共働き世帯」の割合が増加し、6割超

両親のいる世帯(2,565世帯)の共働きの状況をみると、「共働き世帯」の割合が66.7%で、29年度調査(61.5%)から5.2ポイント増加している。(報告書 p.24 図I-1-13)

図I-1-13 共働きの状況－29年度調査との比較



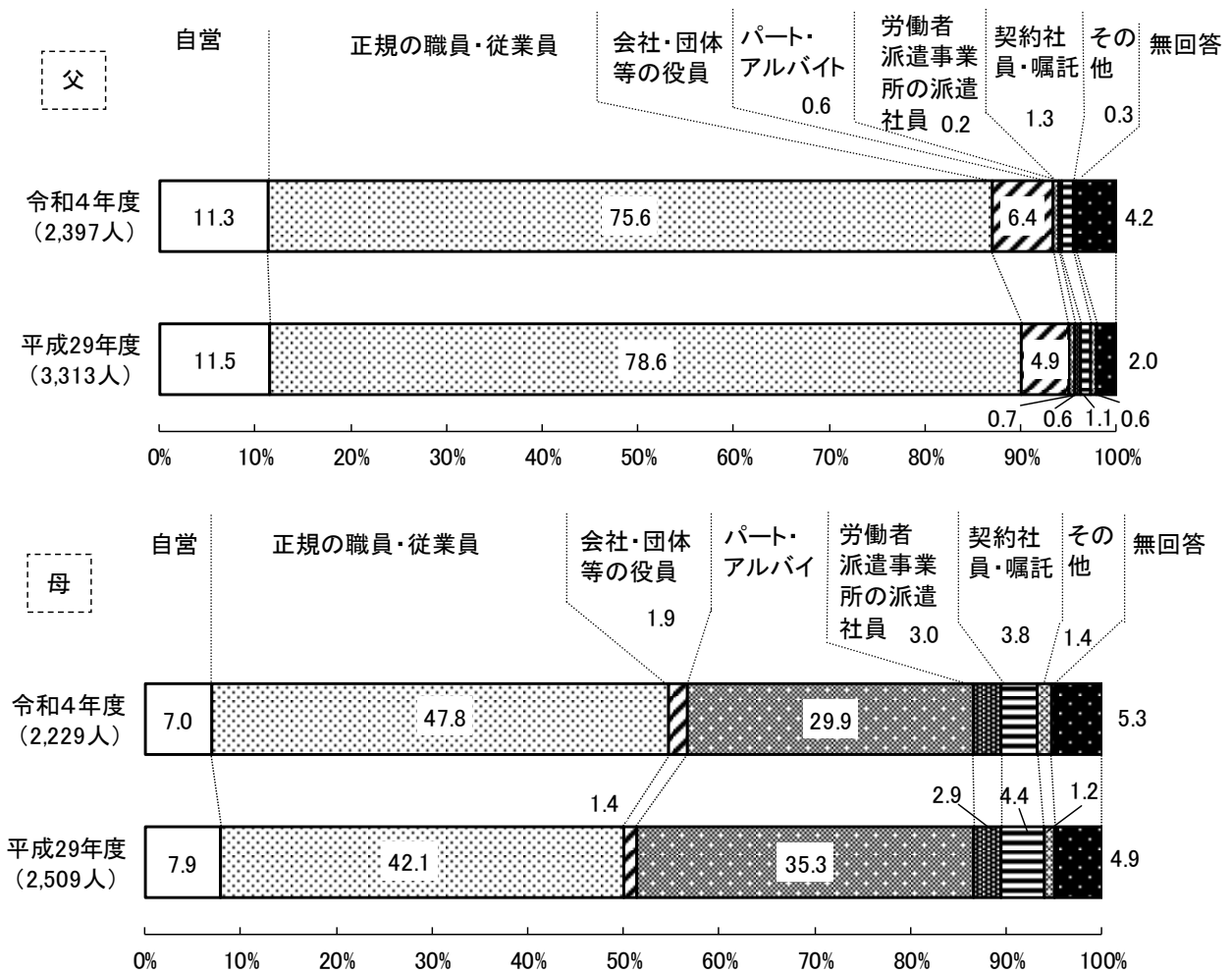
(3) 従業上の地位－29年度調査との比較

母の「正規の職員・従業員」の割合は、29年度調査から5.7ポイント増加し、4割超

就業している父母（4,626人）の従業上の地位は、父母ともに「正規の職員・従業員」の割合が最も高く、父が75.6%、母は47.8%となっている。母の「正規の職員・従業員」の割合は、29年度調査（42.1%）から5.7ポイント増加し、「パート・アルバイト」の割合は29.9%で、29年度調査（35.3%）から5.4ポイント減少している。（報告書 p.25 図I-1-15）

（注）「就業」している人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」「育児休業中である」「病気等で休んでいる」「介護休業中である」と回答した人である。

図I-1-15 従業上の地位－29年度調査との比較



6 世帯収入の状況

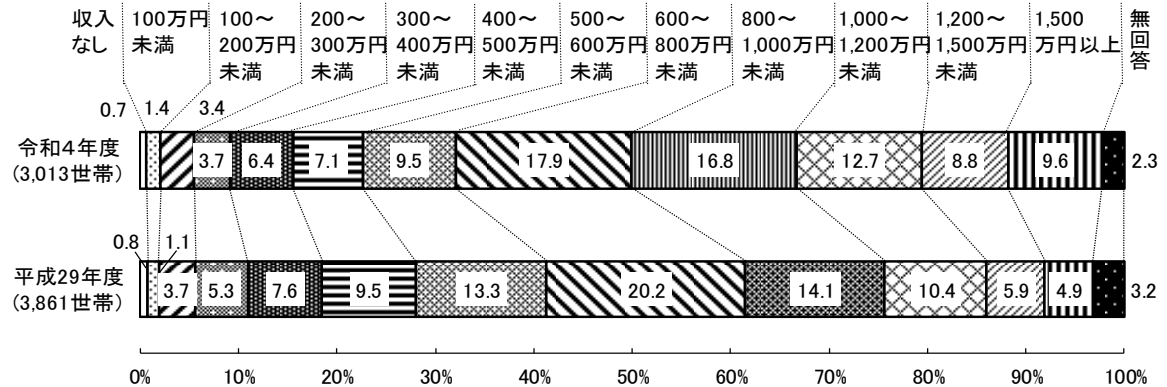
(1) 世帯の年間収入－29年度調査との比較

世帯の年間収入は「600～800万円未満」の割合が最も高い

世帯の年間収入は、「600～800万円未満」の割合が17.9%で最も高く、次いで「800～1000万円未満」が16.8%、「1,000～1,200万円未満」が12.7%となっている。

(報告書 p. 33 図 I-1-21)

図 I-1-21 世帯の年間収入－29年度調査との比較



(2) 世帯の年間収入－共働きの状況別

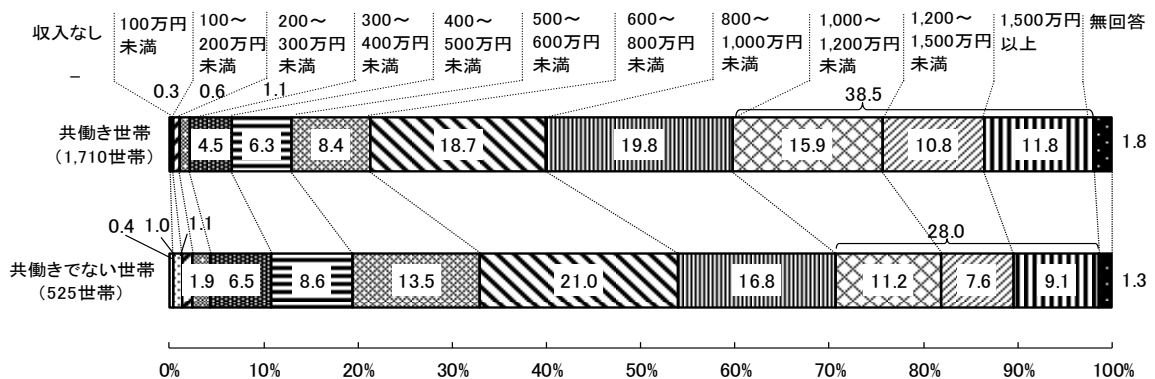
年間収入が「1,000万円以上」の世帯は、共働き世帯では約4割

世帯の年間収入を共働きの状況別にみると、共働き世帯は「800～1,000万円未満」の割合が最も高く19.8%、共働きでない世帯は「600～800万円未満」の割合が最も高く21.0%となっている。

「1,000～1,200万円未満」、「1,200～1,500万円未満」、「1,500万円以上」を合わせた「1,000万円以上」の世帯は、共働き世帯が38.5%、共働きでない世帯が28.0%となっている。

(報告書 p. 36 図 I-1-22)

図 I-1-22 世帯の年間収入－共働きの状況別



(注) 両親世帯 2,565 世帯から、共働きかどうか不明な世帯 330 世帯を除いた、2,235 世帯について集計した。

第2章 就学前の子供がいる世帯

就学前の子供がいる世帯 1,515 世帯の、就学前の子供 1,939 人の状況について述べる。

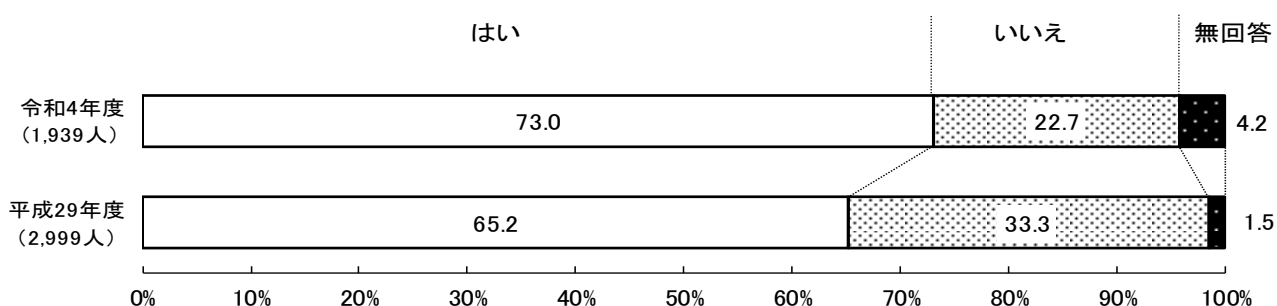
1 就学前の子供の日中の世話

(1) 就学前の子供の日中の世話－29年度調査との比較

就学前の子供を平日の日中預けている割合は7割超

就学前の子供（1,939人）について、平日の日中、通園させたり預けたりしているか聞いたところ、「はい」の割合は73.0%で、29年度調査（65.2%）から7.8ポイント増加している。（報告書 p.39 図 I-2-1）

図 I-2-1 就学前の子供の日中の世話－29年度調査との比較



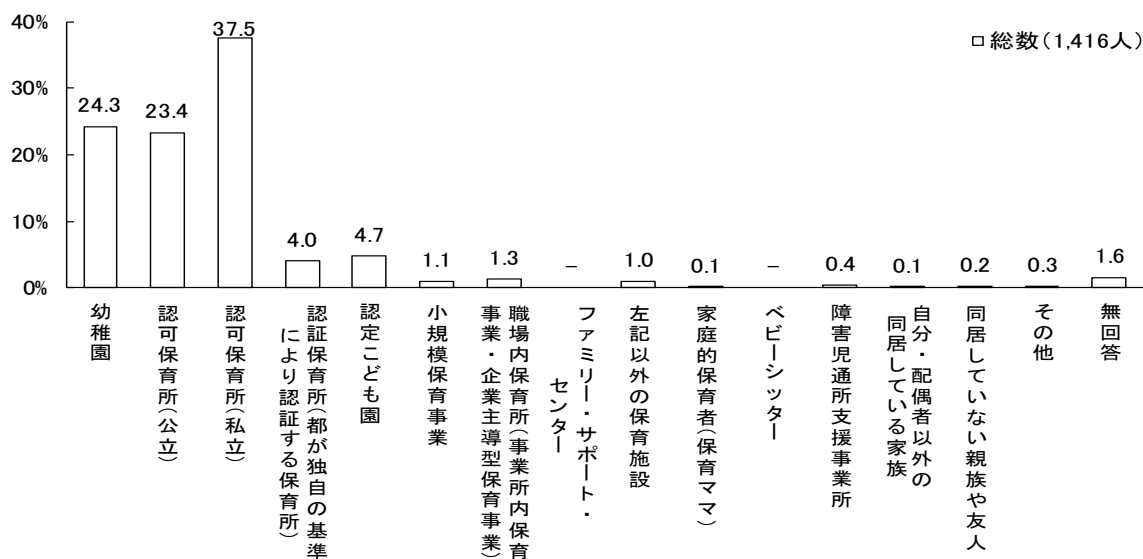
2 日中の子供の預け先（主なところ）

(1) 日中の子供の預け先（主なところ）

「認可保育所（私立）」の割合が最も高く、3割超

平日の日中、通園させたり預けたりしている子供（1,416人）の主な預け先について聞いたところ、「認可保育所（私立）」の割合が37.5%で最も高く、次いで「幼稚園」が24.3%、「認可保育所（公立）」が23.4%となっている。（報告書 p.41 図 I-2-3）

図 I-2-3 日中の子供の預け先（主なところ）



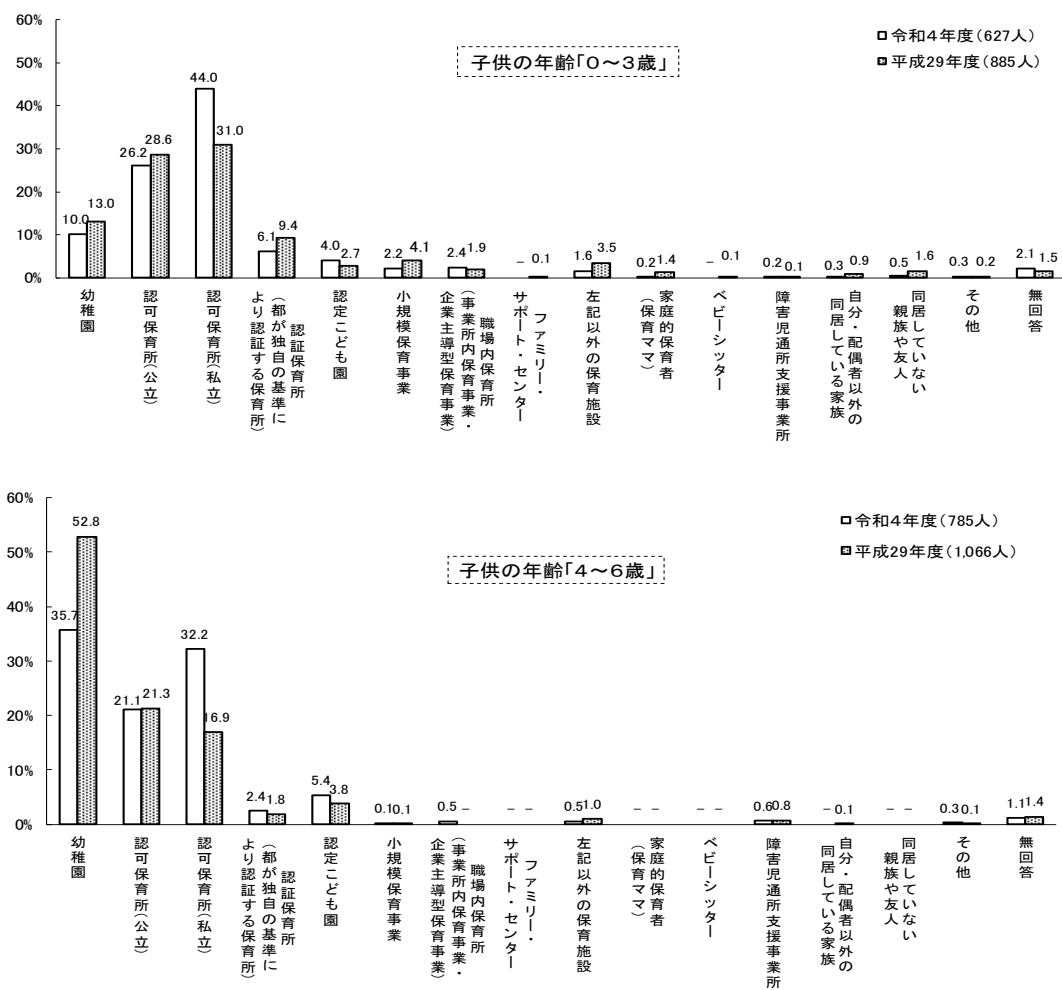
(2) 日中の子供の預け先（主なところ）－子供の年齢別、29年度調査との比較

0～3歳では「認可保育所（私立）」、4～6歳では「幼稚園」の割合がそれぞれ最も高い

日中の子供の主な預け先を子供の年齢別にみると、子供の年齢が0～3歳では、「認可保育所（私立）」の割合が44.0%で最も高く、次いで「認可保育所（公立）」の割合が26.2%となっている。「認可保育所（私立）」の割合は、29年度調査（31.0%）から13.0ポイント増加している。

また、子供の年齢が4～6歳では、「幼稚園」の割合が35.7%で最も高いが、29年度調査（52.8%）から17.1ポイント減少している。（報告書 p. 42 図 I-2-4）

図 I-2-4 日中の子供の預け先（主なところ）－子供の年齢別、29年度調査との比較



(注) 令和4年度の合計が1,416人（通園させたり預けたりしている子供の合計）にならないのは、年齢不明の子供が4人いるためである。同じく、29年度の合計が1,955人にならないのも、年齢不明の子供が4人いるためである。

3 子供を預けていて不満に思うこと

(1) 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕一日中の子供の預け先（主なところ）別

幼稚園では「特にない」、認可保育所では「子供が病気のときに利用できない」の割合が最も高い

子供の預け先に関して困ることや不満に思うことを、日中の子供の主な預け先別にみると、幼稚園では「特にない」の割合が43.3%と最も高く、次いで「子供が病気のときに利用できない」が20.6%、「費用が高い」が16.9%となっている。

認可保育所（公立）及び認可保育所（私立）では、「子供が病気のときに利用できない」の割合が最も高く（42.0%、46.9%）次いで、「特にない」（38.4%、35.4%）、「夜間や休日に利用できない」（18.7%、16.8%）となっている。（報告書 p.53 表 I-2-6）

表 I-2-6 子供を預けていて不満に思うこと〔複数回答〕

一日中の子供の預け先（主なところ）別

	総数	を預けか つてくれ ない子供	夜間 や休日 に利用 でき ない	子供が 病気の ときに 利用 でき ない	良 く ない 教育・ 保育の 内容が	費用が 高い	融 通が きか ない	対 応が 柔軟 では ない	先 生や 保育 者の 教育 の方 針が 異な る	先 生や 保育 者と 養育 者 との 交流 が少 ない	給 食の 内容 が良 くない	不 便に 子供 を見 てく れ ない	通 うの に不 便で ある	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数	100.0 (1,385)	8.6	15.0	37.2	3.0	12.1	7.5	1.9	5.1	2.6	1.6	4.8	5.1	37.9	4.0	
幼稚園	100.0 (344)	11.6	11.9	<u>20.6</u>	1.2	<u>16.9</u>	7.0	1.5	3.8	8.1	0.9	4.1	4.9	<u>43.3</u>	5.5	
認可保育所(公立)	100.0 (331)	12.7	<u>18.7</u>	<u>42.0</u>	1.8	6.0	6.9	2.7	4.2	0.6	1.2	5.7	4.5	<u>38.4</u>	1.8	
認可保育所(私立)	100.0 (531)	4.7	<u>16.8</u>	<u>46.9</u>	5.5	8.7	8.3	2.1	5.8	0.6	2.3	2.8	4.5	<u>35.4</u>	3.6	
認証保育所 (都が独自の基準により 認証する保育所)	100.0 (57)	-	1.8	40.4	-	28.1	1.8	-	3.5	1.8	-	8.8	5.3	43.9	1.8	
認定こども園	100.0 (67)	10.4	13.4	19.4	3.0	20.9	13.4	1.5	11.9	3.0	3.0	4.5	11.9	31.3	9.0	
小規模保育事業	100.0 (15)	6.7	20.0	53.3	-	20.0	13.3	-	6.7	-	-	33.3	6.7	13.3	-	
職場内保育所 (事業所内保育事業・企業主導型保育事業)	100.0 (19)	-	10.5	36.8	-	21.1	-	-	-	-	-	10.5	10.5	36.8	10.5	
ファミリー・サポート・センター	- (0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上記以外の保育施設	100.0 (14)	7.1	-	14.3	-	50.0	-	-	7.1	-	7.1	21.4	7.1	35.7	7.1	
家庭的保育者(保育ママ)	100.0 (1)	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ベビーシッター	- (0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
障害児通所支援事業所	100.0 (6)	33.3	0.0	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	
その他	- (0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

4 子供の預け先を選ぶ際に重視すること

(1) 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

一日中の子供の預け先（主なところ）別

幼稚園では「丁寧に子供を見てくれる」の割合が最も高く5割超、認可保育所（私立）では「通うのに便利な場所にある」の割合が最も高く約6割

平日の日中、通園させたり預けたりしている子供（1,416人）の預け先を選ぶ際に重視することを、日中の子供の主な預け先別にみると、幼稚園と認可保育所（公立）では、「丁寧に子供を見てくれる」の割合が最も高く（58.7%、55.0%）、次いで「通うのに便利な場所にある」となっている（39.0%、53.8%）。認可保育所（私立）は、「通うのに便利な場所にある」の割合が59.1%で最も高く、次いで「丁寧に子供を見てくれる」が52.4%となっている。

（報告書 p.58 表 I-2-7）

表 I-2-7 子供の預け先を選ぶ際に重視すること〔複数回答〕

一日中の子供の預け先（主なところ）別

	総数	預かっている時間まで子供を希望する	夜間や休日でも利用できる	子供が病気のときでも利用できる	就学前教育が充実している	保育内容が充実している	施設整備（園庭を含む）が充実している	高くない費用で利用できる	柔軟な対応をしてくれる	先生や保育者の教育の方針が養育者と一致している	先生や保育者と養育者との交流が盛んである	給食の内容が良い	丁寧に子供を見てくれる	通うのに便利な場所にある	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (1,416)	36.4	4.9	6.3	13.7	32.3	23.4	18.6	14.8	19.0	3.6	6.1	54.1	51.3	1.4	0.3	3.6
幼稚園	100.0 (344)	24.7	4.9	2.3	23.8	31.4	25.6	24.7	11.9	31.7	2.9	4.1	<u>58.7</u>	<u>39.0</u>	0.6	1.2	2.9
認可保育所（公立）	100.0 (331)	41.7	3.6	6.6	9.1	24.5	26.0	18.7	20.5	13.6	4.5	5.7	<u>55.0</u>	<u>53.8</u>	2.1	-	3.9
認可保育所（私立）	100.0 (531)	42.6	6.0	7.2	9.2	34.5	20.5	14.9	12.8	12.6	3.8	7.3	<u>52.4</u>	<u>59.1</u>	1.3	-	4.1
認証保育所 （都が独自の基準により認証する保育所）	100.0 (57)	35.1	-	10.5	10.5	49.1	14.0	14.0	19.3	31.6	1.8	10.5	54.4	49.1	-	-	-
認定こども園	100.0 (67)	32.8	6.0	9.0	25.4	40.3	25.4	17.9	9.0	16.4	3.0	7.5	47.8	55.2	-	-	1.5
小規模保育事業	100.0 (15)	40.0	6.7	20.0	26.7	20.0	13.3	26.7	26.7	6.7	6.7	6.7	20.0	46.7	13.3	-	6.7
職場内保育所 （事業所内保育事業・企業主導型保育事業）	100.0 (19)	15.8	-	5.3	-	36.8	26.3	21.1	26.3	26.3	-	-	63.2	47.4	-	-	10.5
ファミリー・サポート・センター	- (0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上記以外の保育施設	100.0 (14)	35.7	-	-	-	71.4	21.4	7.1	21.4	28.6	-	7.1	71.4	35.7	-	-	-
家庭的保育者（保育ママ）	100.0 (1)	-	-	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ベビーシッター	- (0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
障害児通所支援事業所	100.0 (6)	-	-	-	-	33.3	50.0	33.3	-	50.0	16.7	-	50.0	16.7	-	-	16.7
自分・配偶者以外の同居している家族	100.0 (2)	50.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
同居していない親族や友人	100.0 (3)	66.7	-	-	33.3	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	-
その他	100.0 (4)	75.0	50.0	25.0	-	25.0	-	25.0	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	-	-	-

第3章 小学生の子供がいる世帯

小学生の子供がいる世帯 1,779 世帯の子供 2,251 人の状況について述べる。

1 放課後過ごしている場所

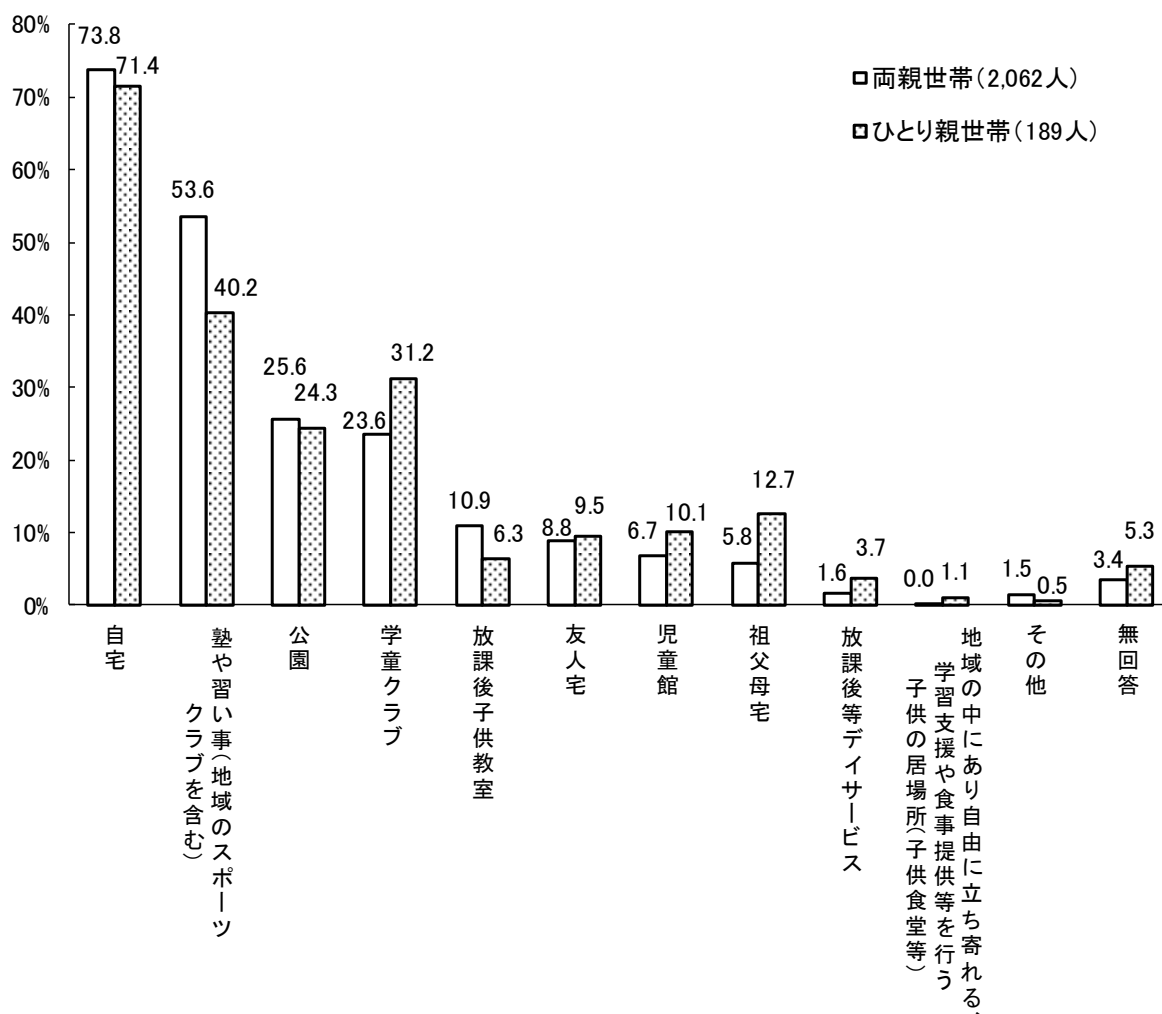
(1) 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－両親の有無別

「学童クラブ」で過ごす割合は両親世帯が2割超、ひとり親世帯が約3割

放課後過ごしている場所を両親の有無別にみると、「自宅」の割合が共に最も高く、両親世帯が73.8%、ひとり親世帯は71.4%となっている。また、「塾や習い事（地域のスポーツクラブを含む）」の割合は、両親世帯が53.6%、ひとり親世帯は40.2%で、両親世帯の方が13.4ポイント高くなっている。

一方、「学童クラブ」の割合は、ひとり親世帯が31.2%、両親世帯は23.6%で、ひとり親世帯の方が7.6ポイント高くなっている。（報告書 p.65 図 I-3-3）

図 I-3-3 放課後過ごしている場所〔複数回答〕－両親の有無別



2 学童クラブの利用状況

(1) 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕－両親の有無別

両親世帯は「行き帰りが安全であること」の割合が最も高く、ひとり親世帯は「自宅から近いこと」の割合が最も高い

学童クラブに望むことを両親の有無別にみると、両親世帯は「行き帰りが安全であること」の割合が68.8%で最も高く、次いで「学校から近いこと」が62.6%、「自宅から近いこと」が51.8%となっている。ひとり親世帯では、「自宅から近いこと」の割合が66.0%で最も高く、次いで「行き帰りが安全であること」が64.2%、「学校から近いこと」が56.6%となっている。
(報告書 p. 78 表 I-3-6)

表 I-3-6 学童クラブを利用するにあたって望むこと〔複数回答〕－両親の有無別

	総数	自宅から近いこと	行き帰りが安全であること	学校から近いこと	利用時間が延長されること	建物や設備(遊び道具など)が整っていること	建物の安全管理面(耐震構造など)が行き届いていること	指導内容が充実すること	指導員と養育者の交流(保護者会、イベント等への養育者参加等)があること	小学校高学年の子供を受け入れること	障害児を受け入れること	学校が休みの日に利用できること	夕食を提供してくれること	長期休暇中(夏休み等)に昼食を提供してくれること	おやつを充実させること	交流ができること	子供の意見を十分取り入れること	費用がかからないこと	保護者会やお便りによる定期的な情報発信があること	子育てに関する悩みなどの相談に対する対応をしてもらえること	病気や怪我などに適切に処置してくれること	子供への多様な遊びや活プログラムを提供してくれること	子供一人ひとりの成長や発達の程度に応じた専門的な支援をしてもらえること	その他	無回答
総数	100.0 (489)	53.4	68.3	62.0	13.5	28.0	24.3	32.3	2.9	18.2	2.0	23.3	3.5	31.7	4.5	4.3	11.0	11.7	2.0	2.5	18.0	28.2	11.2	2.7	1.4
両親世帯	100.0 (436)	51.8	68.8	62.6	14.2	28.4	23.9	33.3	3.0	18.6	2.1	22.7	2.1	31.2	4.6	4.4	11.0	10.1	2.3	2.5	18.6	28.9	11.2	3.0	1.4
ひとり親世帯	100.0 (53)	66.0	64.2	56.6	7.5	24.5	28.3	24.5	1.9	15.1	1.9	28.3	15.1	35.8	3.8	3.8	11.3	24.5	-	1.9	13.2	22.6	11.3	-	1.9

第2部 20歳未満の子供を養育するひとり親世帯

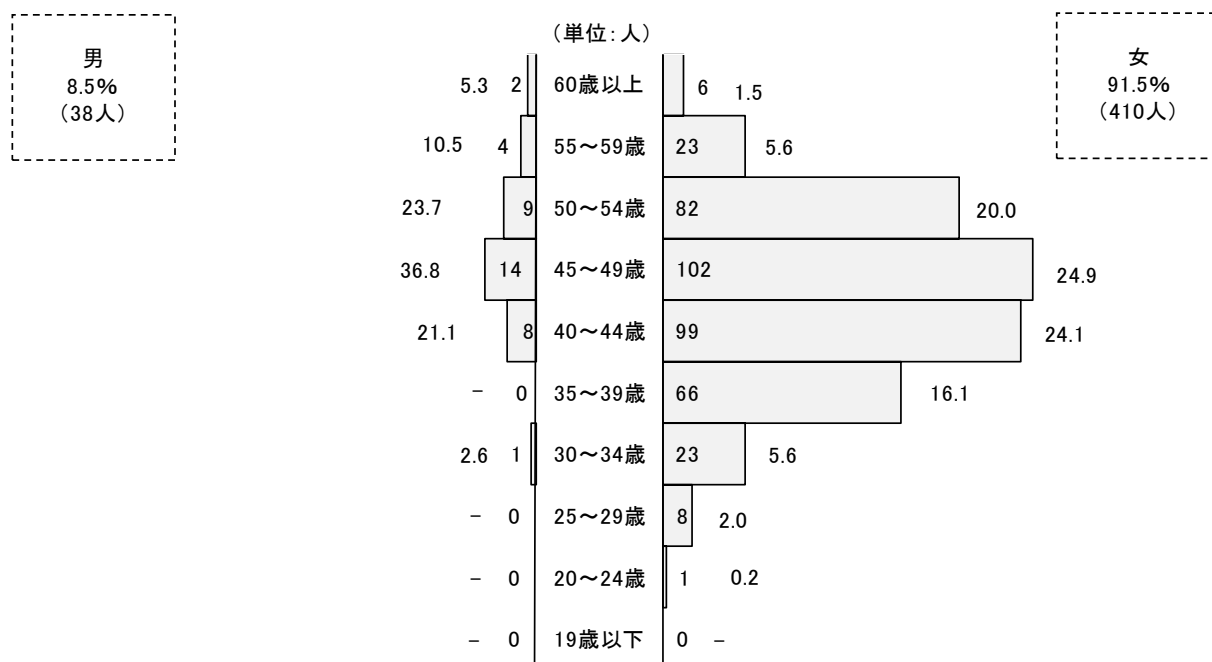
第1章 調査対象世帯の概況

20歳未満の子供を養育するひとり親世帯448世帯の概況並びにその子供770人の概況について述べる。

1 父母の状況一性・年齢階級別

ひとり親世帯の父母の人数を年齢階級別にみると、父、母共に「45～49歳」が最も多く、父は14人、母は102人となっている。（報告書 p. 79 図Ⅱ-1-1）

図Ⅱ-1-1 父母の状況一性・年齢階級別



2 世帯の状況

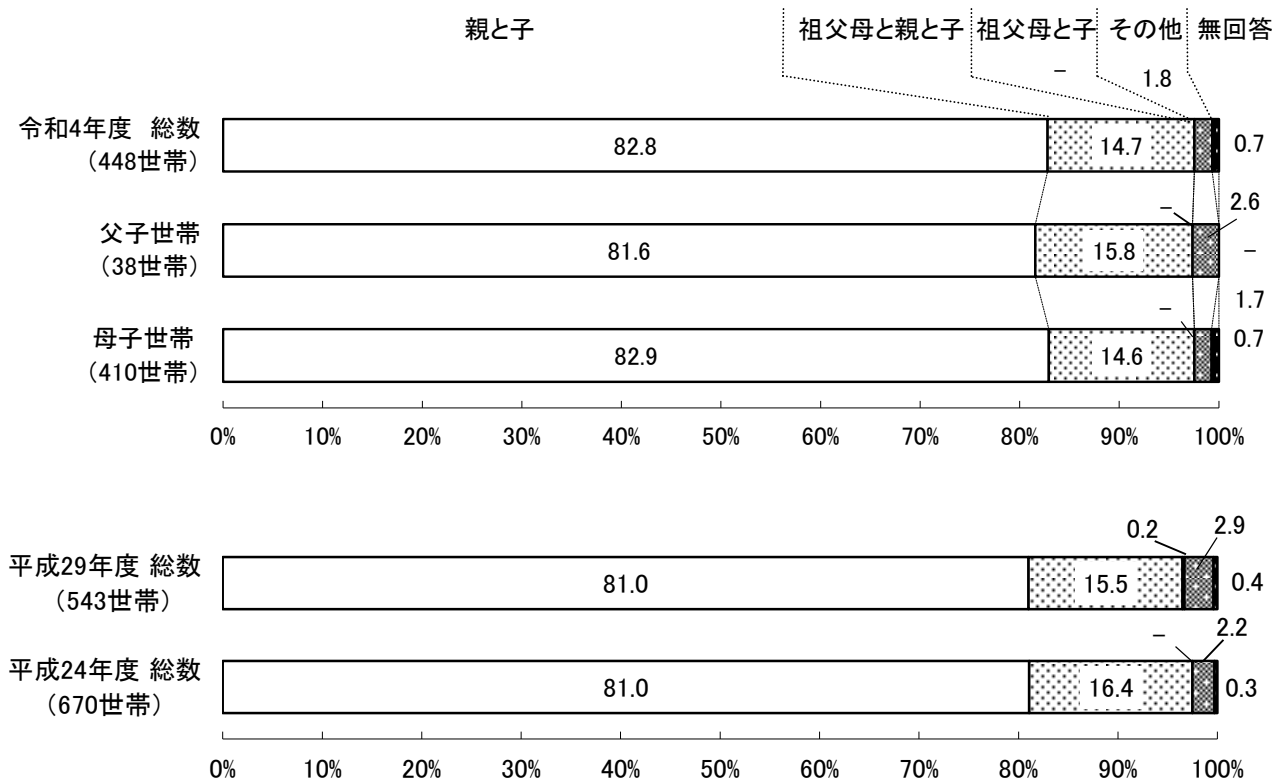
(1) 家族類型—世帯類型（母子・父子世帯）別、過去調査との比較

家族類型は「親と子」の割合が8割超

家族類型は、「親と子」の割合が82.8%で、29年度調査（81.0%）より1.8ポイント高くなっている。

世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、「親と子」の割合は、父子世帯が81.6%、母子世帯は82.9%となっている。（報告書 p. 80 図Ⅱ-1-3）

図Ⅱ-1-3 家族類型—世帯類型（母子・父子世帯）別、過去調査との比較

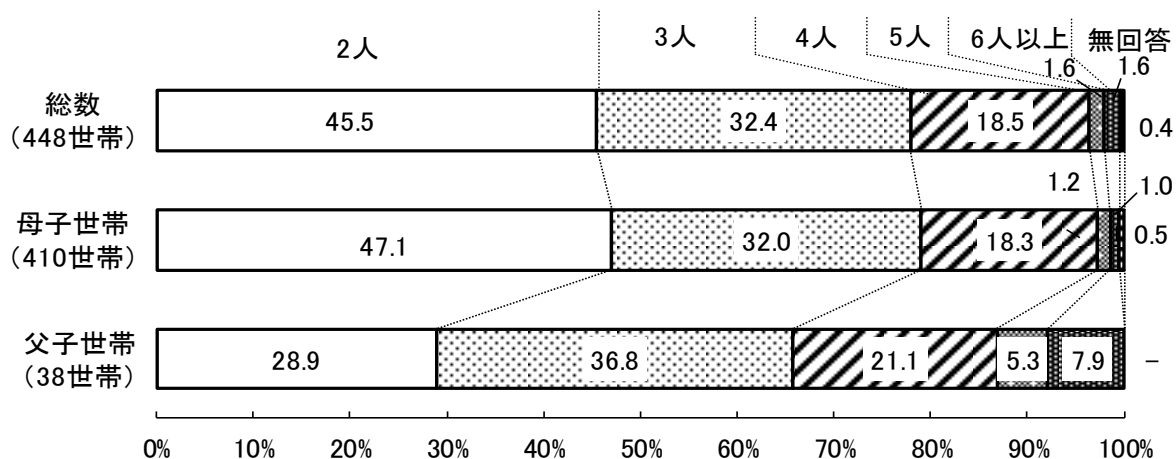


(2) 世帯人員－世帯類型（母子・父子世帯）別

世帯人員は「2人」の割合が最も高く、4割超

世帯人員は、「2人」の割合が45.5%で最も高く、次いで「3人」が32.4%となっている。
世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、「2人」の割合は、母子世帯が47.1%、父子世帯は28.9%となっている。（報告書 p. 81 図Ⅱ-1-4）

図Ⅱ-1-4 世帯人員－世帯類型（母子・父子世帯）別

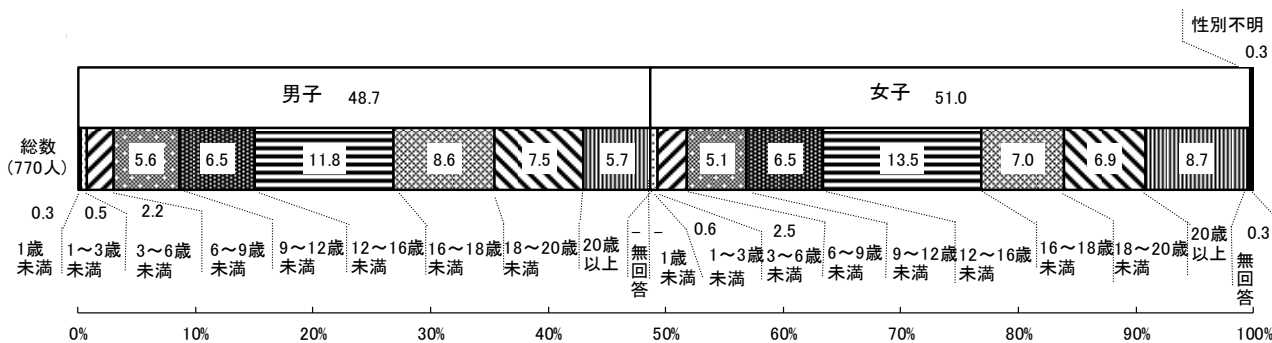


3 子供の状況

(1) 子供の性・年齢階級

子供の総数は770人で、男子48.7%、女子51.0%である。（報告書 p. 81 図Ⅱ-1-5）

図Ⅱ-1-5 子供の性・年齢階級



4 父母の就労状況

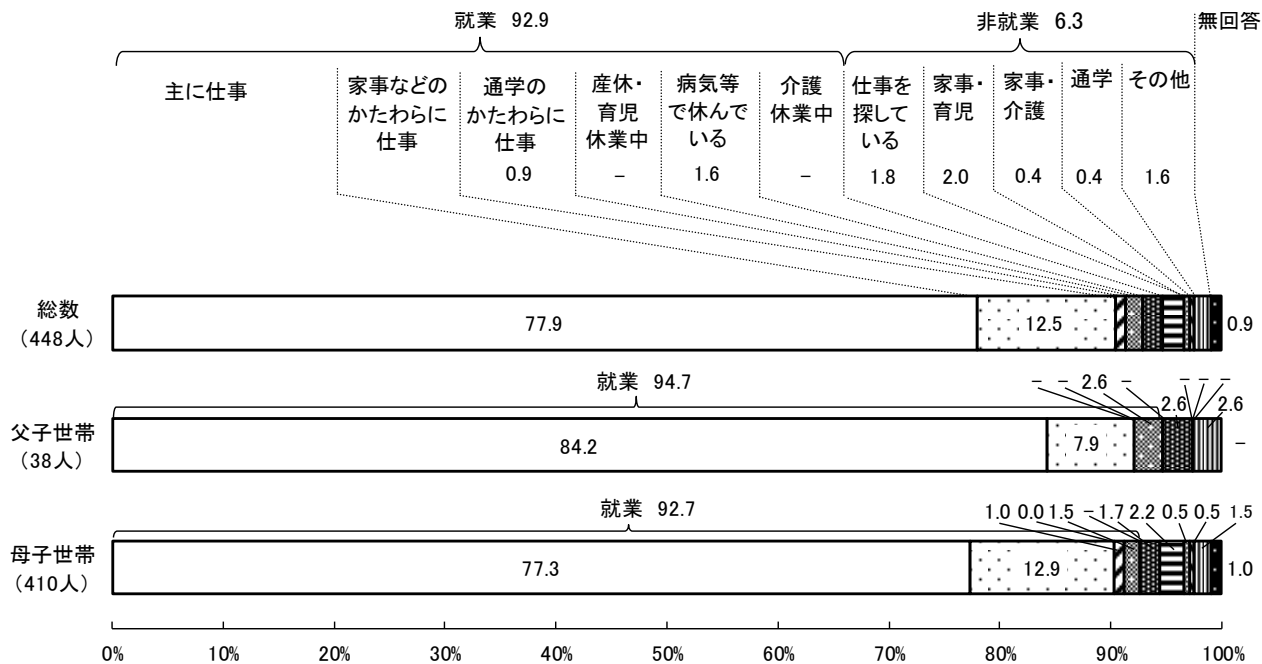
(1) 就業状況

「就業」の割合は、父母とも9割超

「就業」の割合は、父が94.7%、母は92.7%となっている。(報告書 p.86 図Ⅱ-1-9)

(注)「就業」している人とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」「育児休業中である」「病気等で休んでいる」「介護休業中である」と回答した人である。

図Ⅱ-1-9 就業状況



5 世帯収入の状況

(1) 世帯の年間収入—世帯類型（母子・父子世帯）別、29年度調査との比較

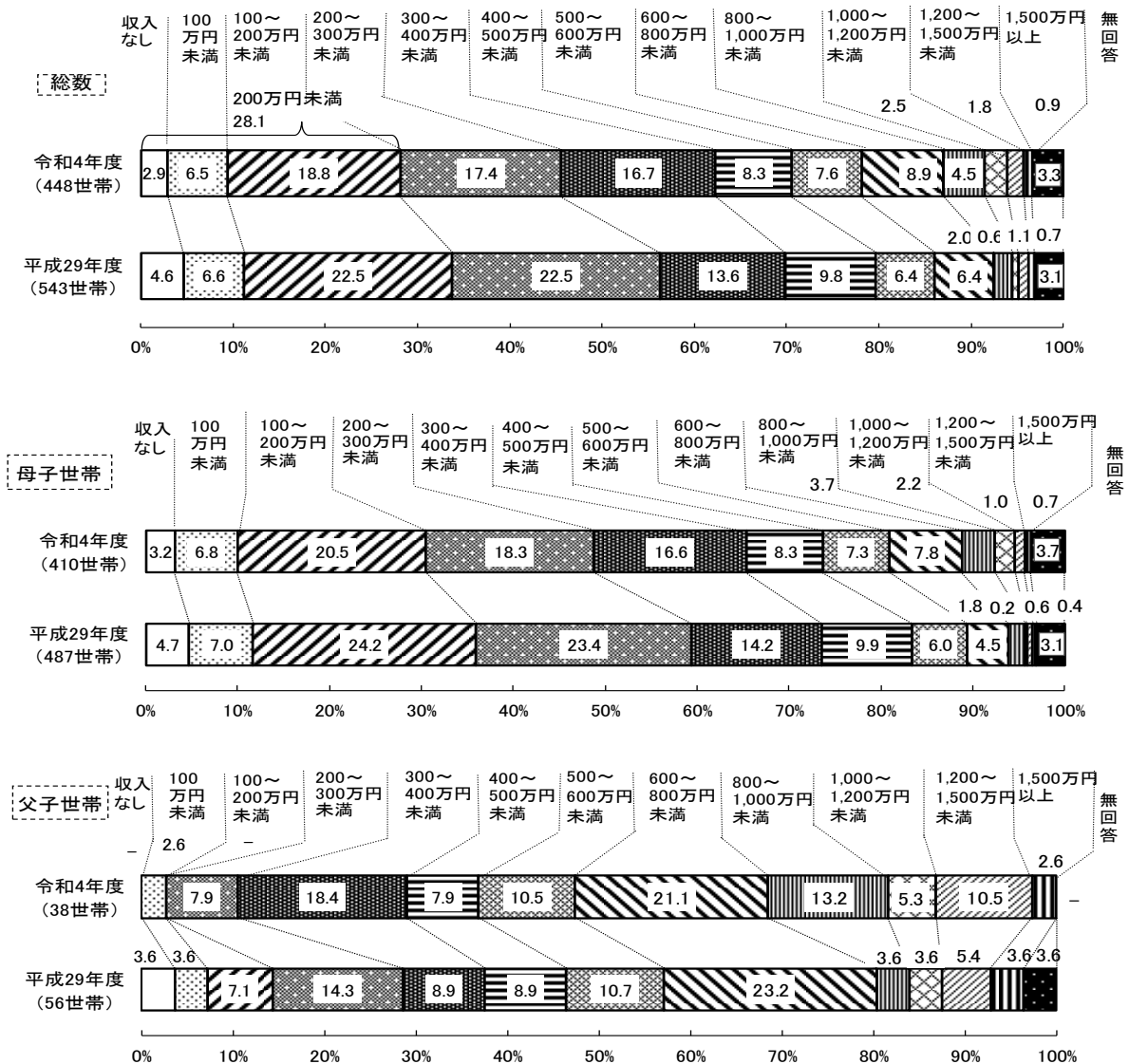
年収「200万円未満」の世帯が約3割

年間収入は、「100～200万円未満」の割合が18.8%で最も高く、次いで「200～300万円未満」が17.4%となっている。「収入なし」、「100万円未満」、「100～200万円未満」を合わせた「200万円未満」の割合は28.1%となっている。

年間収入を世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、母子世帯では「100～200万円未満」の割合が20.5%で最も高く、次いで「200～300万円未満」が18.3%、「300～400万円未満」が16.6%となっている。

父子世帯では、「600～800万円未満」の割合が21.1%で最も高く、次いで「300～400万円未満」が18.4%、「800～1,000万円未満」が13.2%となっている。（報告書 p. 90 図Ⅱ-1-13）

図Ⅱ-1-13 世帯の年間収入—世帯類型（母子・父子世帯）別、29年度調査との比較



第2章 ひとり親世帯になった当時、現在の状況

1 ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること

(1) ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること〔複数回答〕

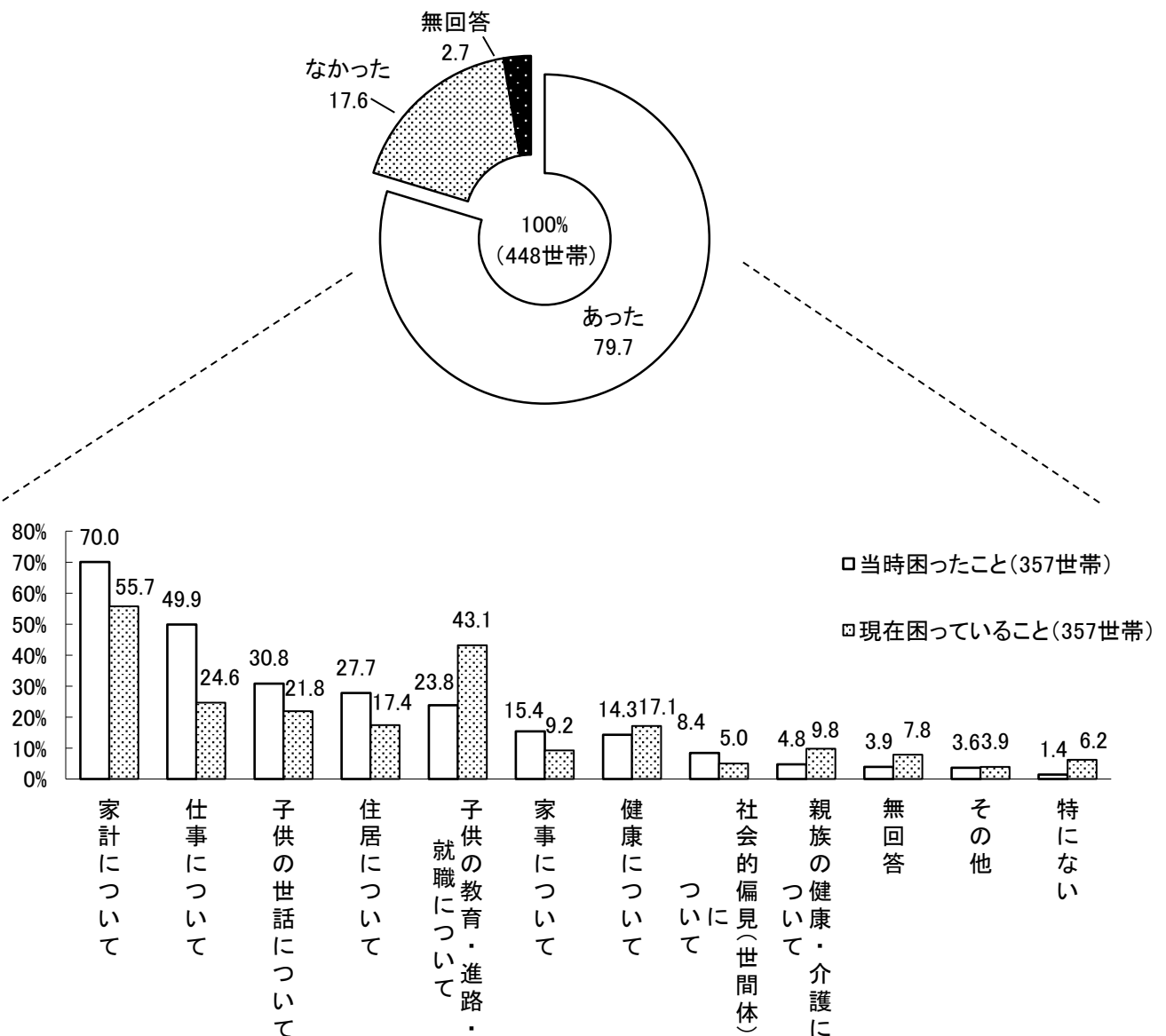
ひとり親になった当時、現在ともに「家計について」の割合が最も高い

暮らし向きのことや子育てに関して、今までに困ったことがあったか聞いたところ、「あった」の割合は79.7%となっている。

「あった」と回答した世帯（357世帯）にその内容を聞いたところ、ひとり親になった当時は、「家計について」の割合が70.0%で最も高く、次いで「仕事について」が49.9%となっている。

ひとり親になって、現在困っていることは、「家計について」の割合が55.7%で最も高く、次いで「子供の教育・進路・就職について」が43.1%となっている。（報告書 p.96 図Ⅱ-2-5）

図Ⅱ-2-5 ひとり親世帯になった当時困ったこと、現在困っていること〔複数回答〕



第3章 就労について

1 転職希望

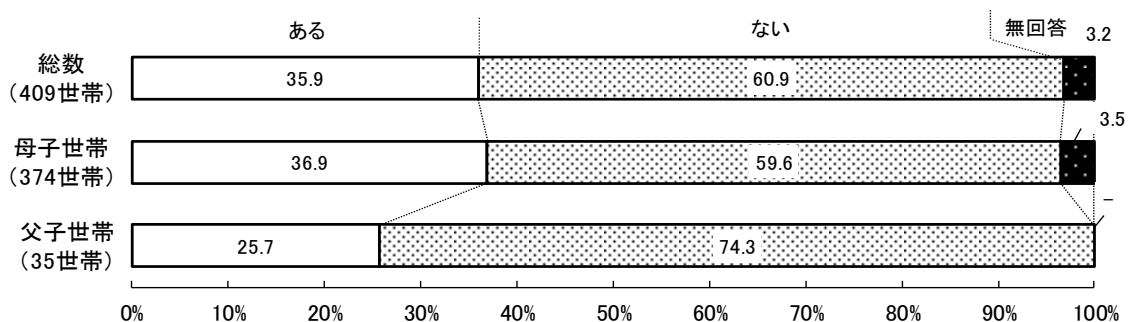
転職の希望が「ある」母子世帯は3割超

働いている世帯（409世帯）に転職する希望があるか聞いたところ、転職の希望が「ある」の割合は35.9%となっている。

転職の希望があるかを世帯類型（母子・父子世帯）別にみると、「ある」の割合は、母子世帯36.9%、父子世帯が25.7%となっている。（報告書 p. 115 図Ⅱ-5-1）

（注）「働いている」世帯とは、就労の状況を問う設問で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」と回答した世帯である。

図Ⅱ-5-1 転職の希望—世帯類型（母子・父子世帯）別

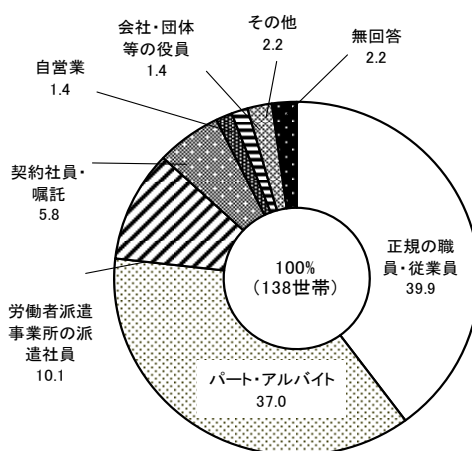


(2) 母の転職の希望—従業上の地位別

転職の希望が「ある」母子世帯の約4割は、正規の職員・従業員

転職の希望が「ある」と回答した母子世帯（138世帯）を従業上の地位別にみると、「正規の職員・従業員」の割合が39.9%で最も高くなっている。（報告書 p. 115 図Ⅱ-5-2）

図Ⅱ-5-2 母の転職の希望—従業上の地位別



（注）父子世帯は、転職希望者が9世帯のため省略した。

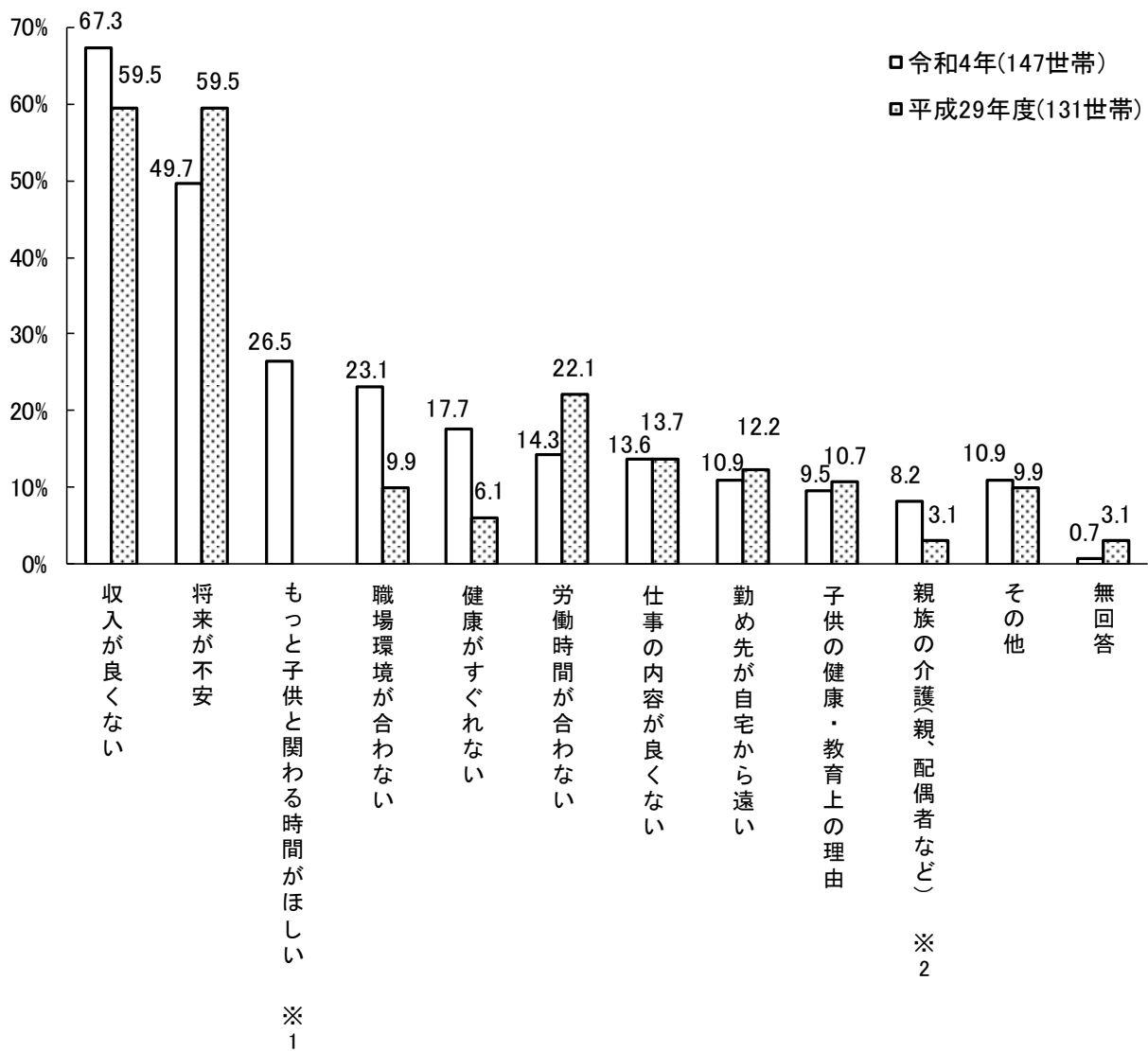
2 転職したい理由

(1) 転職したい理由〔複数回答〕－29年度調査との比較

「収入が良くない」の割合が6割超

転職の希望が「ある」と回答した世帯（147世帯）に、転職したい理由を聞いたところ、「収入が良くない」の割合が67.3%で最も高くなっている。（報告書 p. 116 図Ⅱ-5-3）

図Ⅱ-5-3 転職したい理由〔複数回答〕－29年度調査との比較



(注) ※1は、平成29年度調査では選択肢を設けていないため、データが存在しない。

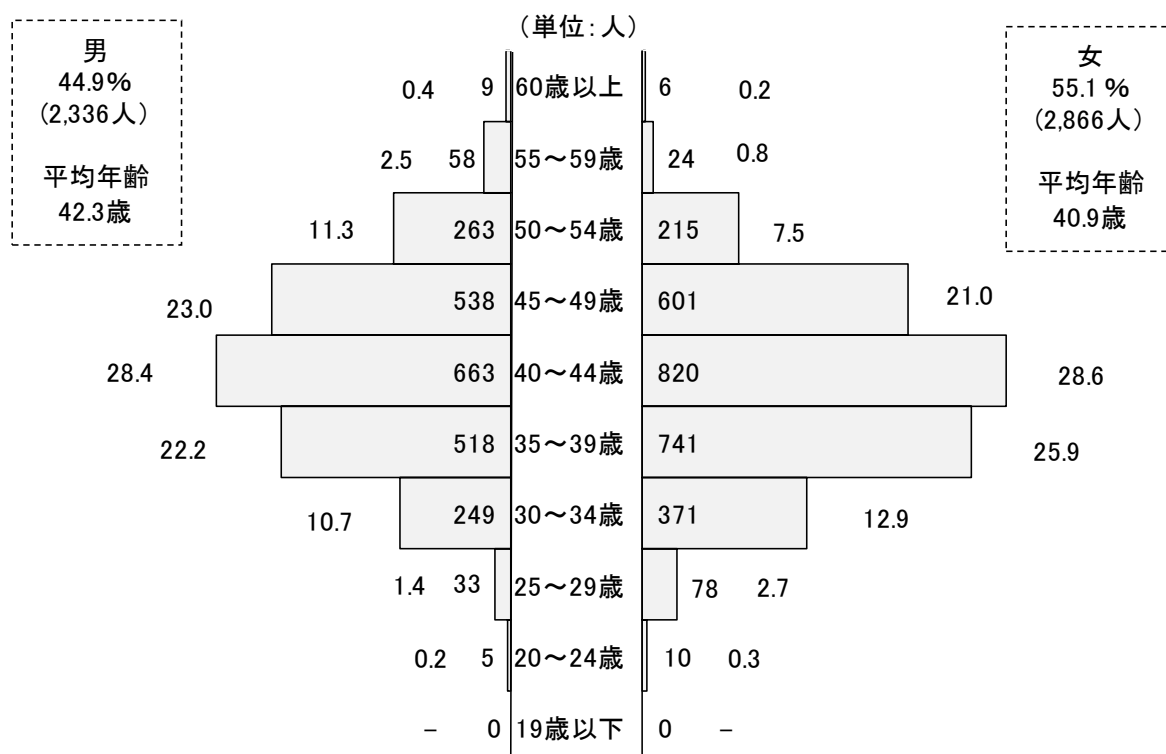
(注) ※2は、平成29年度調査では「親の介護」としていた。

第3部 子育てに関する実態と意識

小学生までの子供を養育する両親世帯 4,800 世帯と 20 歳未満の子供を養育するひとり親世帯 1,200 世帯の子供の父母（養育者を含む。）のうち、回答のあった 5,202 人の状況と意識について述べる。

○ 回答者の性・年齢階級

回答者の平均年齢は、男性が 42.3 歳、女性が 40.9 歳となっている。（報告書 p. 121）



第1章 就労について

1 就労の状況

(1) 就労の状況－29年度調査との比較

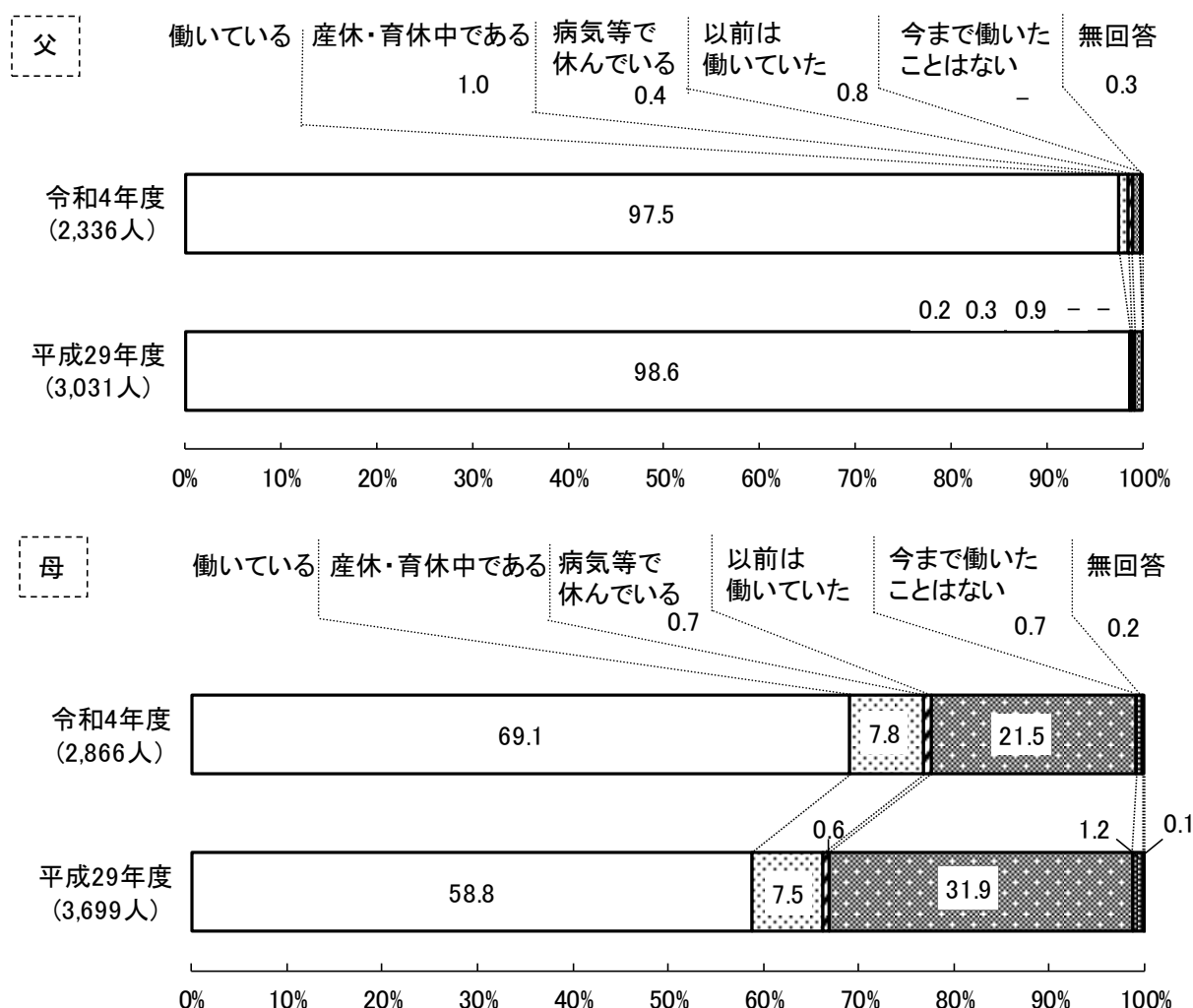
母の「働いている」割合は約7割

対象者全員に就労の状況を聞いたところ、「働いている」の割合は、父が97.5%、母は69.1%となっている。また、母は、「産休・育休中である」の割合が7.8%、「以前は働いていた」の割合は21.5%となっている。

29年度調査と比較すると、母の「働いている」の割合は10.3ポイント増加している。また、父の「産休・育休中である」の割合は0.8ポイント増加し、1.0%となっている。

(報告書 p. 122 図Ⅲ-1-1)

図Ⅲ-1-1 就労の状況－29年度調査との比較



2 仕事をやめた理由

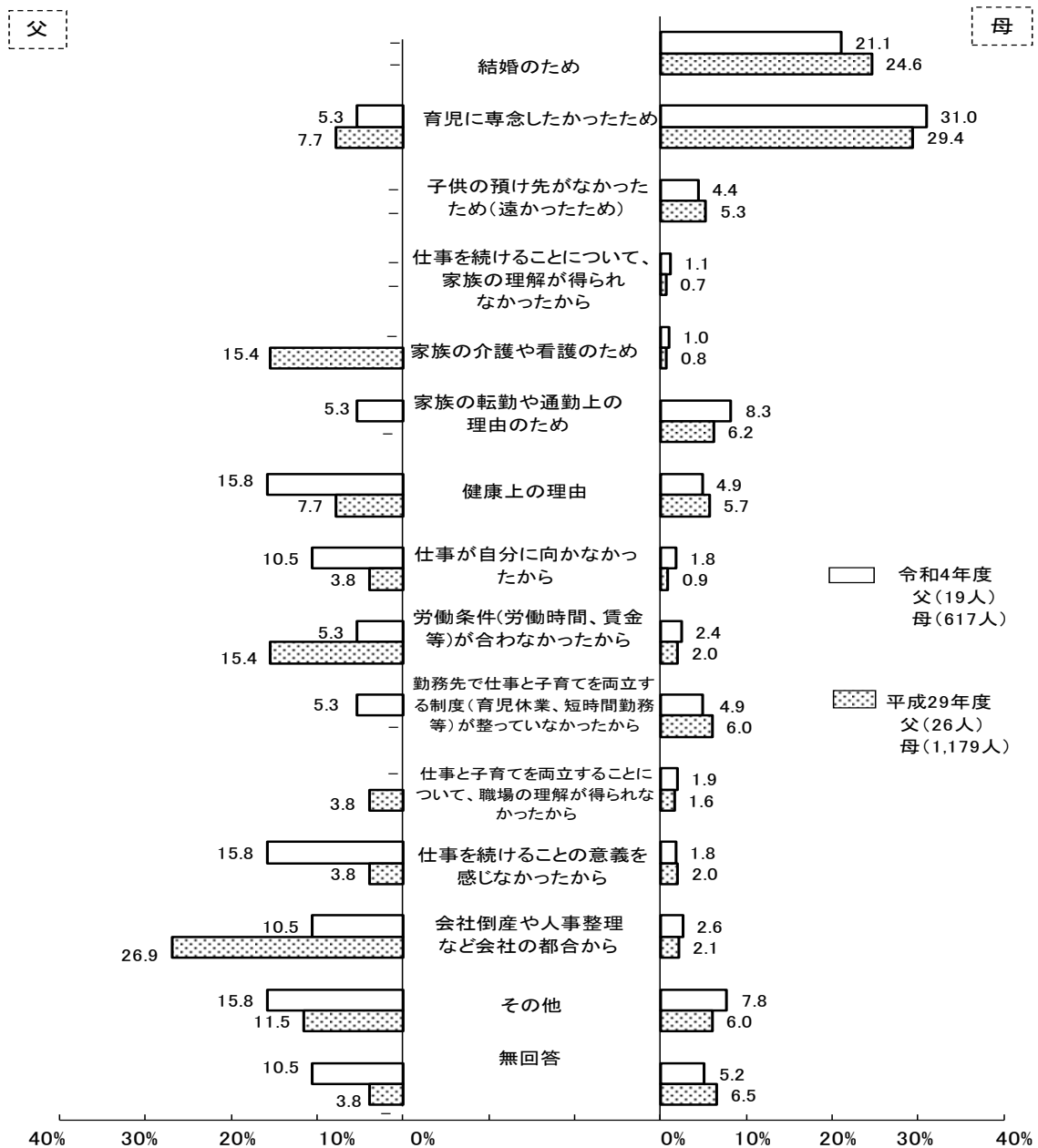
(1) 仕事をやめた理由－29年度調査との比較

母の「育児に専念したかったため」は約3割

就労状況で、「以前は働いていた」と回答した父母（636人）に、仕事をやめた理由を聞いたところ、父は、「健康上の理由」と「仕事を続けることの意義を感じられなかったから」の割合がともに15.8%で最も高くなっている。

母は、「育児に専念したかったため」の割合が31.0%で最も高く、次いで「結婚のため」が21.1%となっている。29年度調査と比べて、母の「結婚のため」は3.5ポイント低くなっている。（報告書 p.128 図Ⅲ-1-5）

図Ⅲ-1-5 仕事をやめた理由－29年度調査との比較



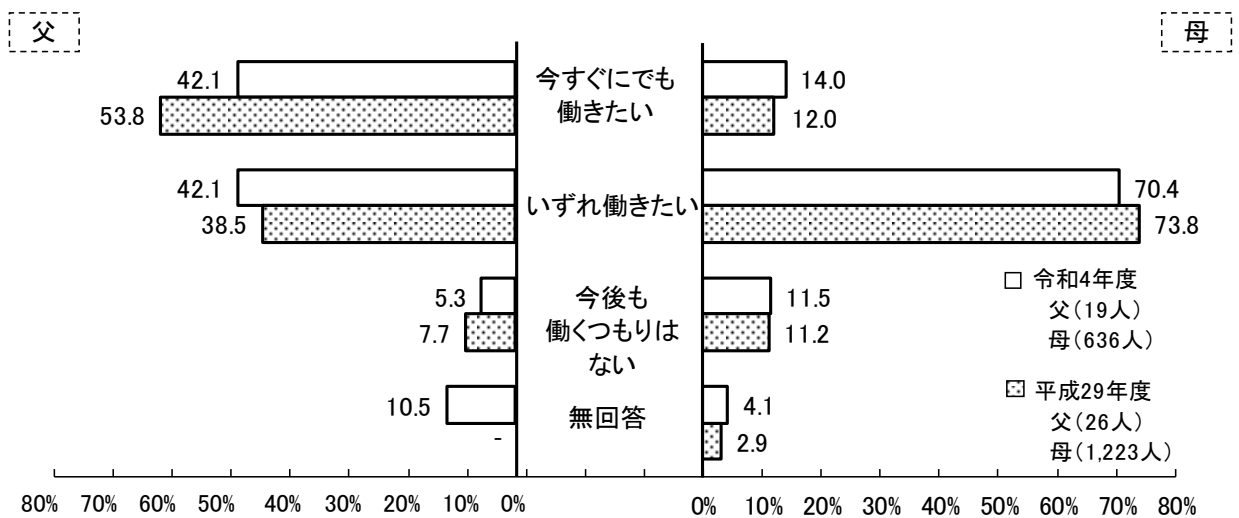
3 今後の就労希望

(1) 今後の就労希望－29年度調査との比較

「いずれ働きたい」母の割合は約7割

就労状況で、「以前は働いていた」又は「今まで働いたことはない」と回答した父母（655人）に、今後働きたいと思うか聞いたところ、父は「今すぐにでも働きたい」「いずれ働きたい」の割合がともに42.1%で最も高く、母は「いずれ働きたい」が70.4%で最も高くなっている。一方、母の「今後も働くつもりはない」の割合は11.5%となっている。（報告書 p.130 図Ⅲ-1-6）

図Ⅲ-1-6 今後の就労希望－29年度調査との比較

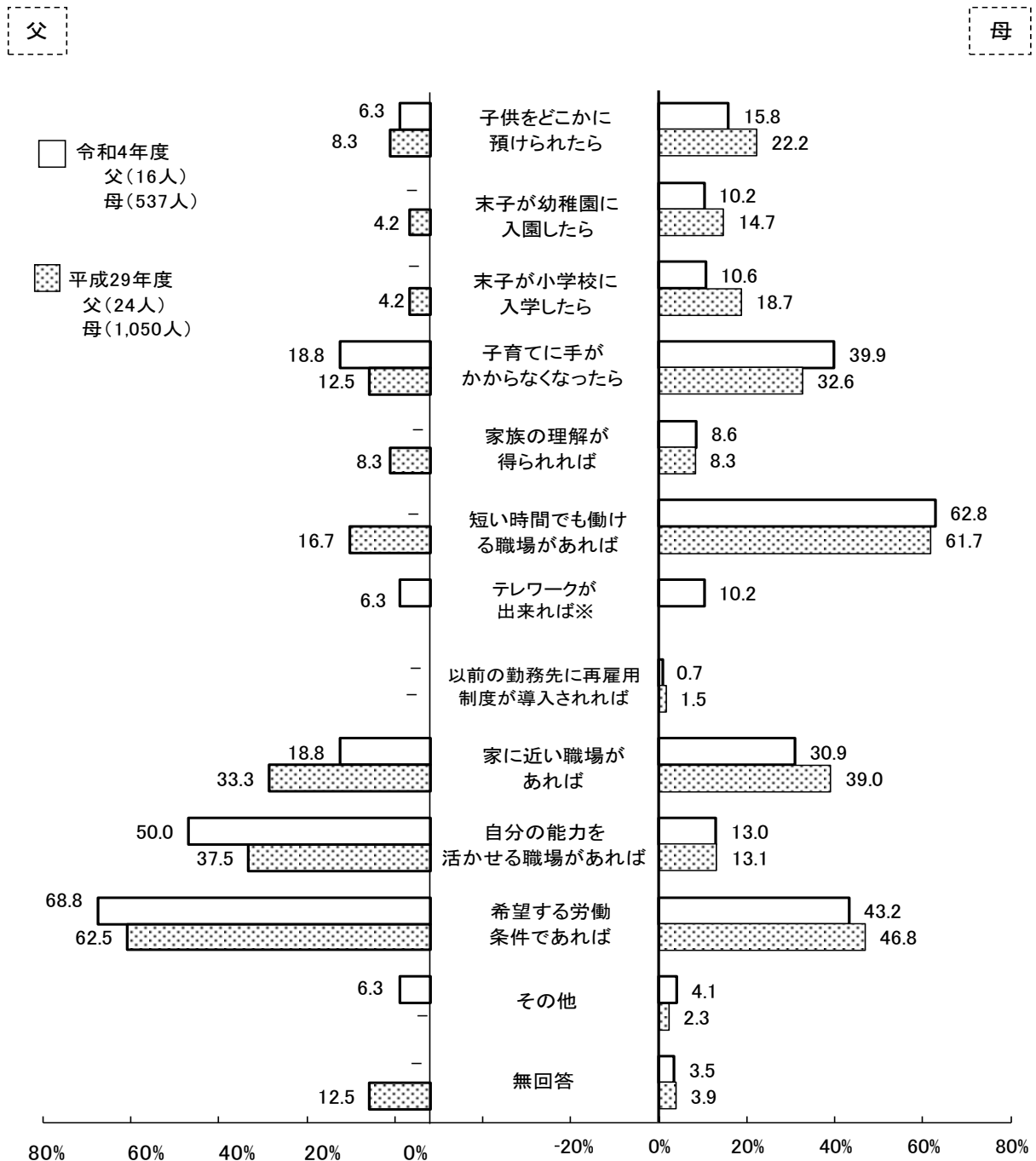


(2) 今後働くための条件〔複数回答〕－29年度調査との比較

母は「短い時間でも働ける職場があれば」の割合が最も高く6割超

今後の就労希望で、「今すぐにでも働きたい」又は「いずれ働きたい」と回答した父母（553人）に、どのような条件が満たされれば働くことができると思うか聞いたところ、父は、「希望する労働条件であれば」が68.8%で最も高く、母は「短い時間でも働ける職場があれば」が62.8%で最も高くなっている。（報告書 p. 135 図Ⅲ-1-8）

図Ⅲ-1-8 今後働くための条件〔複数回答〕－29年度調査との比較



(注)※について、平成29年度調査では、選択肢を設けていないためデータが存在しない。

第2章 育児休業制度

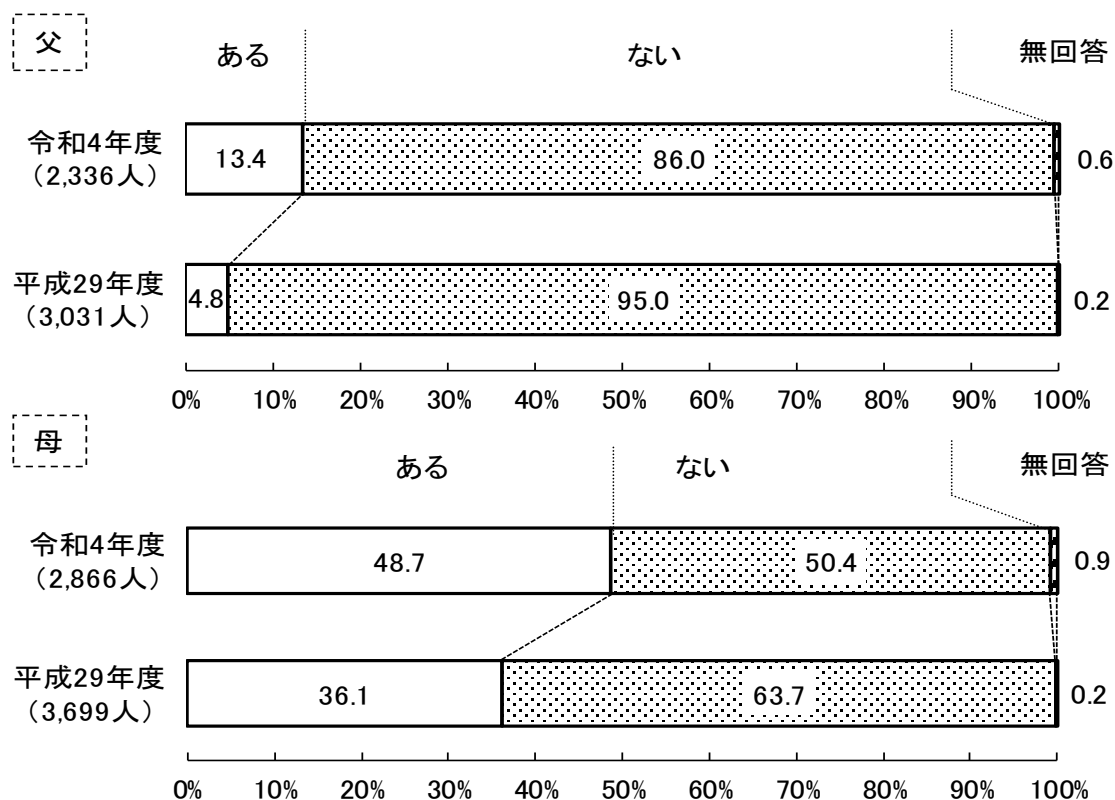
1 育児休業制度の利用の有無

(1) 育児休業制度の利用の有無－29年度調査との比較

育児休業制度の利用割合は父母ともに増加し、父は1割超、母は約5割

対象者全員に育児休業制度を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」と回答した割合は、父が13.4%、母は48.7%となっており、29年度調査と比較して、父は8.6ポイント、母は12.6ポイントそれぞれ高くなっている。（報告書 p. 141 図Ⅲ-2-1）

図Ⅲ-2-1 育児休業制度の利用の有無－29年度調査との比較



2 育児休業の取得期間の現実と理想

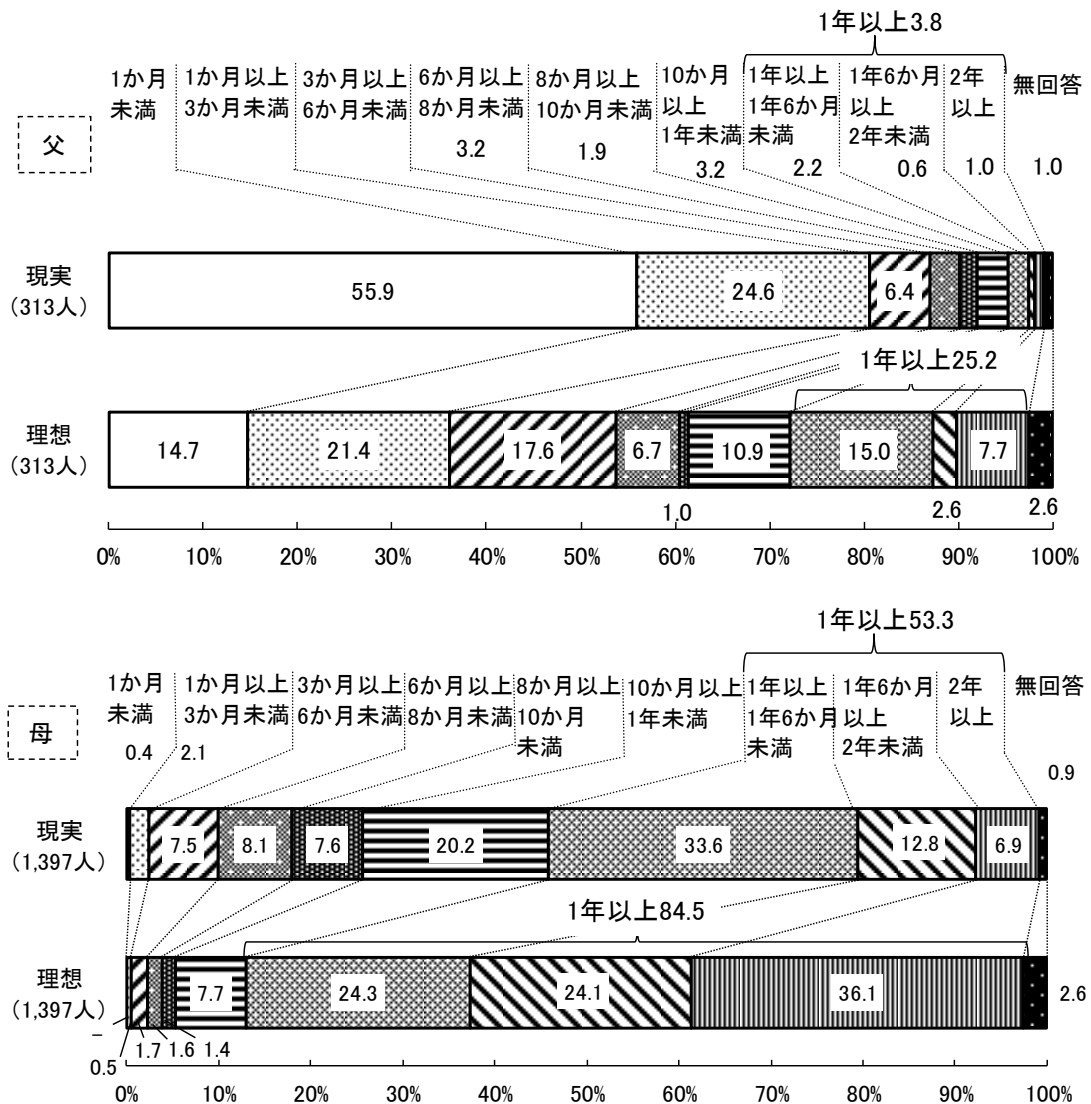
(1) 育児休業の取得期間の現実と理想

父は「1年以上」を理想とする割合が2割超だが、現実には1割未満、母は「1年以上」を理想とする割合が8割超だが、現実には5割超

育児休業制度を利用したことがある父母（1,710人）に、育児休業を取得した実際の期間と理想の期間を聞いたところ、父は、「1年以上1年6か月未満」、「1年6か月以上2年未満」、「2年以上」を合わせた、「1年以上」を理想としている割合は25.2%であるのに対して、現実には「1年以上」取得できた割合は3.8%となっている。

一方、母は「1年以上」を理想としている割合は84.5%であるのに対して、現実には「1年以上」取得できた割合は、53.3%となっている。（報告書 p.143 図Ⅲ-2-2）

図Ⅲ-2-2 育児休業の取得期間の現実と理想



第3章 子育てに関して感じること

1 出産をしやすくするために必要なもの

(1) 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕一性・年齢階級別

父は全ての階級で「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が高く、母は「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が高い階級が多い

出産をしやすくするために必要なものを性・年齢階級別にみると、父は、全ての階級で「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高くなっている（42.7%～65.8%）。

母は「45～49歳」以外の各階級では「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が最も高くなっている（40.8%～52.6%）。「45～49歳」の階級では、「子育てに理解のある職場環境の整備」が最も高く、47.6%となっている。

また、「男女が共に子育てに携わる意識啓発」については、「30歳～34歳」以上の階級では父よりも母の方が高くなっている。（父9.1%～11.6%、母17.5%～21.3%）。

（報告書 p. 152 表Ⅲ-3-1）

表Ⅲ-3-1 出産をしやすくするために必要なもの〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	復帰できる制度の充実	出産・育児のために退職した人が	子供が病気やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実	預けられる保育サービスの整備	夜間・休日を問わず、子供をサービスの整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	相談の場の整備	出産や子育てに関する情報提供や相談の場の整備	子育て家庭の住宅環境の整備	応援する機運の醸成	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (5,202)	41.8	26.8	42.3	41.3	4.9	27.9	10.8	8.5	3.8	2.7	10.1	5.9	19.5	15.5	2.2	4.5	0.8	1.3				
父	100.0 (2,336)	34.8	30.9	39.7	51.7	4.7	25.3	9.6	11.3	4.9	2.0	7.7	6.8	21.0	10.2	2.5	5.0	1.8	1.3				
29歳以下	100.0 (38)	18.4	39.5	39.5	<u>65.8</u>	5.3	15.8	10.5	15.8	2.6	-	7.9	18.4	23.7	15.8	-	5.3	-	-				
30～34歳	100.0 (249)	37.3	31.3	36.9	<u>64.3</u>	4.0	20.5	8.4	13.7	2.4	0.4	6.8	11.6	19.7	<u>9.2</u>	2.4	5.6	0.4	1.2				
35～39歳	100.0 (518)	34.6	27.0	42.7	<u>54.1</u>	3.7	23.2	11.0	11.8	4.6	1.7	8.3	7.1	19.5	<u>10.4</u>	2.7	4.8	1.9	1.5				
40～44歳	100.0 (663)	32.3	30.3	41.0	<u>49.6</u>	6.5	26.5	9.7	11.3	6.6	2.3	5.7	6.5	21.4	<u>11.3</u>	2.6	6.0	2.0	1.1				
45～49歳	100.0 (538)	35.3	32.0	37.4	<u>50.7</u>	4.6	29.0	10.2	10.4	4.1	2.6	7.8	5.6	23.2	<u>9.5</u>	2.8	4.3	1.9	1.1				
50歳以上	100.0 (330)	39.7	34.8	38.5	<u>42.7</u>	3.3	25.2	7.0	10.0	5.5	2.1	11.5	3.9	19.7	<u>9.1</u>	1.8	3.6	2.4	2.1				
母	100.0 (2,866)	47.5	23.5	44.3	32.8	5.1	29.9	11.7	6.1	2.9	3.2	12.0	5.2	18.2	19.8	2.0	4.2	1.2	1.3				
29歳以下	100.0 (88)	<u>51.1</u>	19.3	42.0	47.7	2.3	23.9	9.1	8.0	-	3.4	14.8	8.0	11.4	14.8	3.4	2.3	3.4	-				
30～34歳	100.0 (371)	<u>52.6</u>	21.8	40.2	43.4	5.1	26.1	7.0	4.3	1.9	3.0	12.9	7.0	18.6	<u>17.5</u>	2.4	6.5	0.3	2.2				
35～39歳	100.0 (741)	<u>50.7</u>	21.9	46.8	35.1	4.5	32.3	10.4	5.7	3.0	2.4	10.5	6.7	19.4	<u>21.3</u>	1.6	3.8	0.4	0.7				
40～44歳	100.0 (820)	<u>45.7</u>	22.8	43.9	33.2	5.9	29.5	12.6	6.1	3.3	3.4	12.2	4.6	19.6	<u>20.7</u>	2.1	4.6	1.0	1.7				
45～49歳	100.0 (601)	44.9	24.8	<u>47.6</u>	24.1	4.2	31.4	14.6	6.8	3.8	4.2	12.1	3.0	14.6	<u>19.8</u>	1.7	3.3	1.5	1.5				
50歳以上	100.0 (245)	<u>40.8</u>	31.4	37.6	25.3	8.2	28.2	13.9	7.8	2.0	3.3	13.5	4.1	20.4	<u>17.6</u>	2.4	2.9	3.7	0.8				

2 子育てをしやすくするために必要なもの

(1) 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕－世帯の年間収入別

「1,000～1,200万円未満」以下の各階級では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高い

子育てをしやすくするために必要なものを世帯の年間収入別にみると、「1,000～1,200万円未満」以下の各階級では、「児童手当など経済的な手当の充実」の割合が最も高く（43.2%～55.1%）、「1,200～1,500万円未満」の階級では、「仕事の時間を短縮したり、ずらしたりする制度」の割合が45.7%で最も高く、「1,500万円未満」以上の階級では、「子育てに理解のある職場環境の整備」の割合が44.6%で最も高くなっている。（報告書 p.159 表Ⅲ-3-7）

表Ⅲ-3-7 子育てをしやすくするために必要なもの〔複数回答〕－世帯の年間収入別

	総数	ずらしたりする制度	育児休業制度の普及	子育てに理解のある職場環境の整備	児童手当など経済的な手当の充実	職場内保育施設の整備	復産・育児のために退職した人が復帰できる制度の充実	子供が病气やけがをしたときに休暇を取れる制度の充実	預けられる保育サービスを整備	夜間・休日を問わず、子供を預けられるサービスを整備	小学生の子供を預けられるサービスの整備	求職中に子供を預けられるサービスの整備	相談の場の整備	出産や子育てに関する情報提供や	子育て家庭の住宅環境の整備	社会全体で子育てを応援する機運の醸成	男女が共に子育てに携わる意識啓発	子供の遊び場環境の整備	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (5,202)	37.9	15.4	39.6	46.0	8.7	9.1	34.3	15.6	13.3	3.9	2.2	7.5	18.6	14.1	10.2	3.3	0.8	2.0		
200万円未満	100.0 (191)	33.5	9.4	41.4	<u>50.8</u>	7.3	8.4	41.9	16.2	16.8	3.7	1.6	12.0	12.0	9.4	9.9	0.5	-	3.1		
200～300万円未満	100.0 (130)	28.5	19.2	36.9	<u>54.6</u>	9.2	10.8	36.9	15.4	9.2	2.3	4.6	10.8	12.3	10.0	6.9	4.6	2.3	2.3		
300～400万円未満	100.0 (291)	34.7	18.9	37.5	<u>53.3</u>	7.2	7.9	36.1	14.4	11.0	4.1	3.1	12.7	15.1	12.0	7.6	2.7	0.3	2.4		
400～500万円未満	100.0 (352)	34.4	17.0	35.5	<u>55.1</u>	8.5	7.7	39.8	12.5	8.8	5.4	1.7	9.4	16.5	11.1	12.5	3.4	0.9	2.0		
500～600万円未満	100.0 (507)	35.7	15.6	38.9	<u>51.9</u>	8.9	8.5	37.7	12.0	15.0	5.5	2.2	7.5	16.0	10.3	9.1	2.4	0.4	2.4		
600～800万円未満	100.0 (976)	36.0	18.2	39.2	<u>50.5</u>	7.4	7.3	36.2	15.0	10.0	4.6	1.6	7.4	17.0	13.3	11.5	3.7	0.9	1.8		
800～1,000万円未満	100.0 (928)	40.2	16.5	39.5	<u>46.3</u>	9.7	9.5	35.5	13.1	12.6	4.3	2.3	7.8	17.0	15.6	11.3	3.2	0.8	1.5		
1,000～1,200万円未満	100.0 (699)	39.6	13.4	39.2	<u>43.2</u>	9.4	10.9	32.0	16.2	14.2	2.9	3.0	6.6	21.5	14.9	9.9	4.1	0.4	2.0		
1,200～1,500万円未満	100.0 (481)	<u>45.7</u>	11.6	42.0	36.0	7.5	9.4	29.5	18.5	16.8	1.9	1.7	5.4	25.8	20.6	7.5	3.7	0.6	1.0		
1,500万円以上	100.0 (531)	39.5	12.4	<u>44.6</u>	31.5	9.4	12.2	25.8	23.0	19.0	2.6	1.9	4.7	23.7	15.8	9.4	3.0	1.7	2.1		

3 子育てをされていて日ごろ感じること

(1) 子育てをされていて日ごろ感じること

配偶者が子育てに協力してくれないと思う」について「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合は、母は3割超

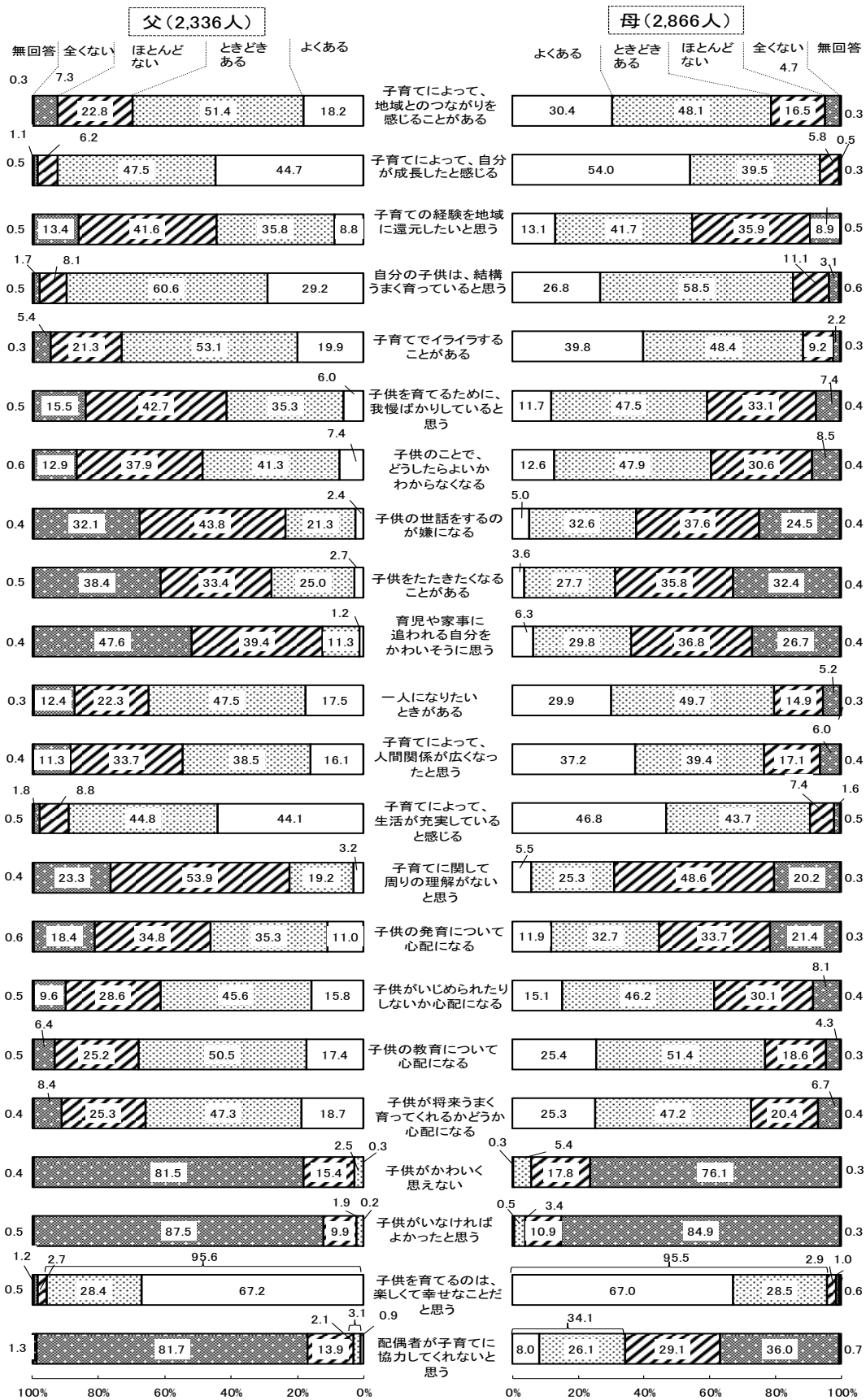
対象者全員に子育てをされていて日ごろ感じることを聞いたところ、「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合が最も高いのは、父母ともに「子供を育てるのは楽しくて幸せなことだと思う」で、父は95.6%、母は95.5%となっている。

母は、「子育てでイライラすることがある」について「よくある」が39.8%、「子育てによって人間関係が広がったと思う」が37.2%と、父（19.9%、16.1%）よりそれぞれ19.9ポイント、21.1ポイント高くなっている。

また、「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合は、母が34.1%、父は3.1%で、母が31.0ポイント高くなっている。

（報告書 p. 160～161 図Ⅲ-3-3）

図Ⅲ-3-3 子育てをしていて日ごろ感じること



(注) 「配偶者が子育てに協力してくれないと思う」については、両親世帯のみ集計対象としている。

(総数＝父 2,301人、母 2,465人)

4 相談相手

(1) 相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別

父は全ての階級で、母は「45～49歳」以下の全ての階級で「配偶者」の割合が最も高い

相談相手を性・年齢階級別にみると、父は全ての階級において、「配偶者」の割合が最も高くなっている（91.4%～95.6%）。母は「45～49歳」以下の全ての階級において、「配偶者」の割合が最も高いが（76.3%～88.8%）、「50歳以上」では「友人」が最も高く、60.8%となっている。（報告書 p.164 表Ⅲ-3-9）

表Ⅲ-3-9 相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	配偶者	自分や配偶者の親	左記以外の家族や親族	保育所や幼稚園、学校等の先生	塾や習いごとの先生	友人	子供の保育所や幼稚園、学校等を通じて親しくなった人	職場の人	隣近所の人	病院の医師、看護師	保健所・保健センターの保健師	公的機関の相談員	民間の相談窓口の相談員	インターネット（掲示板等）	その他	無回答
総数	100.0 (4,654)	85.4	62.4	22.4	30.6	8.6	51.8	24.1	31.6	4.9	10.7	2.6	3.4	0.5	4.9	1.1	0.2
父	100.0 (1,953)	94.0	52.5	14.2	15.7	3.4	35.8	6.8	36.5	3.3	5.8	1.2	1.4	0.2	4.1	0.5	0.3
29歳以下	100.0 (35)	<u>91.4</u>	74.3	22.9	8.6	-	31.4	-	45.7	5.7	2.9	-	-	-	2.9	-	2.9
30～34歳	100.0 (216)	<u>94.4</u>	61.6	14.4	14.8	0.5	40.7	3.7	41.2	0.9	4.6	1.9	-	-	5.1	0.5	0.5
35～39歳	100.0 (427)	<u>95.6</u>	59.5	15.2	18.3	1.9	37.7	4.9	39.8	3.5	6.6	1.2	1.6	0.5	5.2	0.2	-
40～44歳	100.0 (561)	<u>94.5</u>	52.0	13.4	15.3	4.3	36.7	7.0	38.9	3.2	5.3	1.6	1.6	0.4	4.1	0.5	0.4
45～49歳	100.0 (456)	<u>92.1</u>	46.7	14.3	14.3	4.8	32.7	9.4	30.0	3.3	5.7	0.7	2.0	0.0	3.5	0.4	0.2
50歳以上	100.0 (258)	<u>93.8</u>	41.9	12.8	16.7	4.7	32.9	8.5	31.8	4.7	7.0	1.2	1.2	0.0	2.7	0.8	0.4
母	100.0 (2,701)	79.2	69.6	28.3	41.4	12.4	63.3	36.6	28.0	6.1	14.2	3.7	4.7	0.7	5.6	1.6	0.1
29歳以下	100.0 (80)	<u>87.5</u>	88.8	20.0	36.3	5.0	55.0	11.3	27.5	3.8	17.5	7.5	5.0	1.3	12.5	1.3	-
30～34歳	100.0 (349)	<u>88.8</u>	80.8	26.1	49.9	5.4	55.9	27.5	24.1	3.7	18.3	7.2	4.9	0.9	9.2	1.4	0.3
35～39歳	100.0 (702)	<u>85.3</u>	74.4	28.6	47.0	11.4	64.2	38.5	27.8	5.3	13.8	4.6	5.0	0.6	7.4	1.0	-
40～44歳	100.0 (788)	<u>78.2</u>	70.3	27.7	44.3	15.2	65.0	38.8	30.8	8.2	14.1	2.7	4.3	0.9	3.9	2.3	0.1
45～49歳	100.0 (565)	<u>76.3</u>	61.9	29.6	31.3	14.2	66.5	42.3	28.5	6.7	12.0	1.9	4.1	0.5	2.5	0.9	0.2
50歳以上	100.0 (217)	52.5	46.1	33.2	26.7	14.3	<u>60.8</u>	31.3	24.0	4.1	13.4	1.8	6.9	0.9	5.1	2.8	0.5

第4章 地域における子育て

1 子育てをしていく上で整備してほしいもの〔複数回答〕

(1) 子育てをしていく上で整備してほしいもの〔複数回答〕－性・年齢階級別

母は、「30～34歳」以下の階級では、「子供が泣いても周囲の目を気にすることなく利用できる電車車両」の割合が、「35～39歳」から「45～49歳」の階級では、「子供が安全に遊ぶことができる公園」の割合が最も高い

子育てをしていく上で整備してほしいものを性・年齢階級別にみると、父は、全ての年齢階級において「子供が安全に遊ぶことができる公園」の割合が最も高くなっている（46.4%～54.2%）。

母は、「30～34歳」以下の階級では、「子供が泣いても周囲の目を気にすることなく利用できる電車車両」の割合が最も高く（45.0%～63.6%）、「35～39歳」から「45～49歳」の階級では、「子供が安全に遊ぶことができる公園」が最も高く（45.8%～48.9%）、「50歳以上」の階級は、「段差のない歩道や駅などのバリアフリー」が43.7%で最も高くなっている。

（報告書 p.176 表Ⅲ-4-1）

表Ⅲ-4-1 子育てをしていく上で整備してほしいもの〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	授乳や駅や劇場などの民間施設の利用	子供連れの場所がある	段差のない歩道や駅などのバリアフリー	電車車両	子供が泣いても周囲の目を気にすることなく利用できる	両親が参加できる子育て学級	SNS等で気軽に相談できる	夏休みなどの長期休暇中に預かってくれるところ	就学後の子供を、放課後や	子供が安全に遊ぶことができる公園	中高生向けの児童館	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (5,202)	30.7	32.2	35.7	42.8	4.0	3.8	35.3	48.9	14.5	6.1	2.3	1.0		
父	100.0 (2,336)	31.4	35.9	29.2	38.5	4.5	3.5	30.7	51.8	13.9	5.4	3.7	1.0		
29歳以下	100.0 (38)	50.0	47.4	26.3	50.0	5.3	-	26.3	<u>50.0</u>	7.9	5.3	-	2.6		
30～34歳	100.0 (249)	45.4	38.2	36.9	45.0	5.6	2.0	32.5	<u>47.0</u>	7.6	6.0	-	0.8		
35～39歳	100.0 (518)	33.6	41.1	29.0	37.6	4.6	2.1	34.2	<u>54.2</u>	10.6	6.2	2.7	1.0		
40～44歳	100.0 (663)	31.7	33.5	28.4	41.0	4.5	4.5	29.7	<u>54.0</u>	15.8	5.7	3.9	0.8		
45～49歳	100.0 (538)	24.0	34.4	28.6	35.9	3.0	3.9	28.3	<u>52.4</u>	16.5	4.6	4.6	1.3		
50歳以上	100.0 (330)	27.0	32.1	26.7	33.0	5.5	4.2	30.6	<u>46.4</u>	16.4	4.5	6.4	1.2		
母	100.0 (2,866)	30.2	29.2	41.1	46.2	3.6	4.2	38.9	46.5	15.0	6.7	1.3	1.0		
29歳以下	100.0 (88)	52.3	33.0	44.3	<u>63.6</u>	4.5	2.3	23.9	44.3	2.3	4.5	-	-		
30～34歳	100.0 (371)	44.7	33.2	44.2	<u>45.0</u>	3.2	3.8	40.4	42.9	6.2	8.1	1.3	1.3		
35～39歳	100.0 (741)	35.8	31.2	38.6	48.6	3.4	3.5	40.1	<u>48.9</u>	11.7	7.4	1.1	0.7		
40～44歳	100.0 (820)	26.3	29.9	40.7	45.0	3.5	4.0	39.3	<u>48.3</u>	17.4	6.6	1.2	2.0		
45～49歳	100.0 (601)	21.5	26.0	41.1	44.8	3.8	6.0	39.9	<u>45.8</u>	17.3	5.3	0.8	0.5		
50歳以上	100.0 (245)	17.6	21.2	<u>43.7</u>	42.0	4.1	3.3	35.1	41.6	29.0	6.9	3.3	0.4		

第5章 家族のコミュニケーション

1 子供と一緒に過ごす時間

(1) 子供と一緒に過ごす時間（平日）－父母の1日あたりの実労働時間別

1日あたりの実労働時間が「10時間以上」の父は、「1時間未満」の割合が5割超

平日に子供と一緒に過ごす時間を父母の1日あたりの実労働時間別にみると、実労働時間が「6時間未満」の父は、子供と過ごす時間が「4～5時間未満」の割合が25.9%で他の階級と比べて最も高く、実労働時間が「10時間以上」では、「ほとんどない」、「30分未満」、「30分～1時間未満」を合わせた「1時間未満」の割合は54.0%となっている。（報告書 p.190 表Ⅲ-5-1）

表Ⅲ-5-1 子供と一緒に過ごす時間（平日）－父母の1日あたりの実労働時間別

	総数	ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上	無回答
総数	100.0 (5,202)	1.8	4.7	9.0	13.2	14.0	14.0	14.7	28.1	0.5
父	100.0 (2,336)	3.5	9.3	17.6	23.5	19.9	12.6	7.0	6.1	0.5
働いている	100.0 (2,147)	3.5	9.3	17.2	24.2	20.5	12.7	6.9	5.2	0.5
6時間未満	100.0 (27)	-	3.7	7.4	11.1	11.1	18.5	<u>25.9</u>	18.5	3.7
6～7時間未満	100.0 (33)	-	3.0	6.1	9.1	24.2	33.3	21.2	3.0	-
7～8時間未満	100.0 (306)	1.0	2.6	6.9	22.2	27.1	16.7	13.1	10.5	-
8～9時間未満	100.0 (714)	1.5	5.7	12.7	24.6	22.7	17.9	9.1	5.3	0.3
9～10時間未満	100.0 (472)	3.0	8.7	21.6	28.0	21.4	9.1	4.4	3.4	0.4
10時間以上	100.0 (520)	8.1	19.6	26.3	23.1	13.5	5.0	1.3	2.5	0.6
1時間未満		-	6.1	9.1	9.1	9.1	15.2	6.1	45.5	-
働いていない	100.0 (33)	-	6.1	9.1	9.1	9.1	15.2	6.1	45.5	-
母	100.0 (2,866)	0.4	1.0	2.1	4.7	9.2	15.1	21.0	46.0	0.5
働いている	100.0 (1,922)	0.5	1.4	2.9	6.2	11.8	19.4	26.1	31.4	0.4
6時間未満	100.0 (517)	0.2	0.4	1.9	4.1	6.8	9.1	20.3	56.1	1.2
6～7時間未満	100.0 (366)	-	0.8	1.4	4.6	10.7	19.7	32.0	30.9	-
7～8時間未満	100.0 (491)	0.6	1.8	2.9	4.9	12.8	26.3	29.1	21.6	-
8～9時間未満	100.0 (394)	1.0	2.0	4.6	8.6	15.2	24.9	25.9	17.3	0.5
9～10時間未満	100.0 (85)	-	4.7	9.4	15.3	23.5	17.6	22.4	7.1	-
10時間以上	101.0 (29)	3.4	-	-	34.5	13.8	20.7	24.1	3.4	-
働いていない	100.0 (799)	0.3	0.1	0.4	1.4	2.6	5.1	9.6	79.7	0.8

2 夫婦のコミュニケーション

(1) 夫婦のコミュニケーションー29年度調査との比較

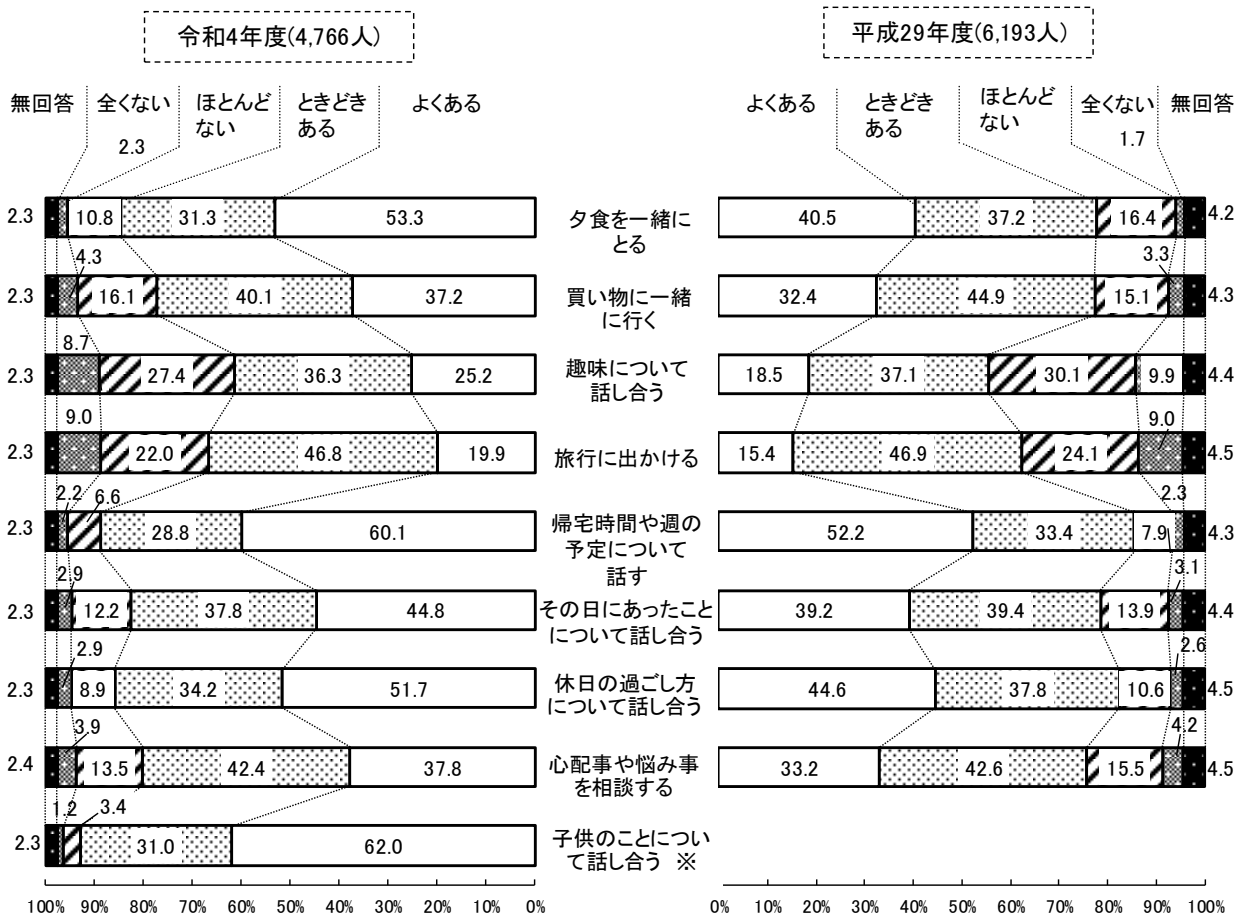
全ての項目において「よくある」の割合は、29年度調査よりも高い

配偶者のいる父母(4,766人)に、夫婦のコミュニケーションについて聞いたところ、「よくある」の割合は、「子供のことについて話し合う」が最も高く、62.0%となっている。

また、全ての項目において「よくある」の割合は、29年度調査よりも高くなっている。

(報告書 p. 192 図Ⅲ-5-2)

図Ⅲ-5-2 夫婦のコミュニケーションー29年度調査との比較



(注) ※は、平成29年度調査では項目を設けていないため、平成29年度のデータは存在しない。

第6章 夫婦の家事・育児分担

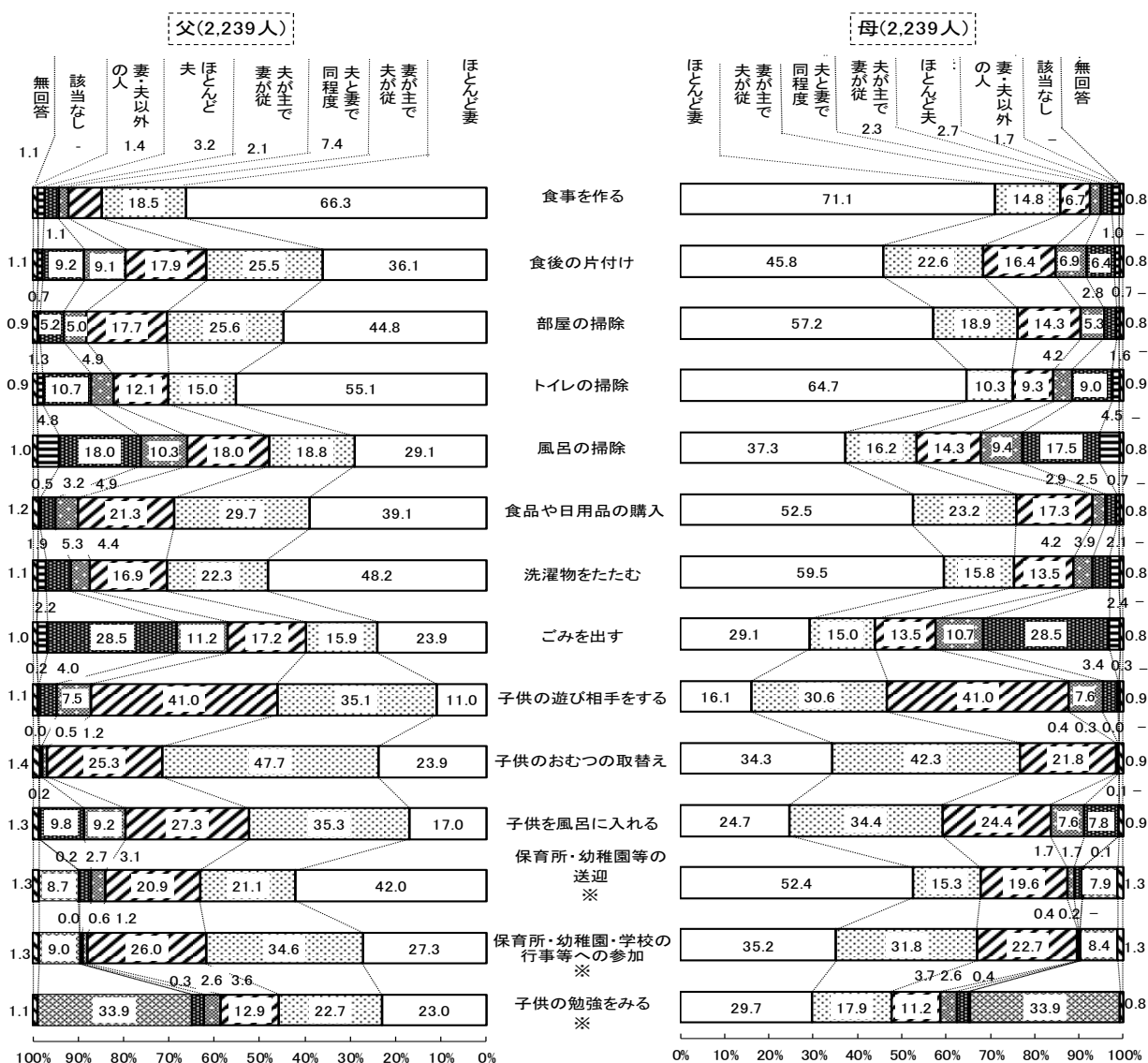
1 夫婦の家事・育児分担（項目別）

(1) 夫婦の家事・育児分担（項目別）

家事・育児の全ての項目で、「ほとんど妻」の割合は、父よりも母の方が高い

配偶者のいる父母（4,478人）に、家事・育児について、主として誰が行っているか聞いたところ、全ての項目で、「ほとんど妻」の割合は、父よりも母の方が高くなっている。「食事を作る」については、「ほとんど妻」の割合が、父は66.3%、母は71.1%となっている。「ゴミを出す」については、「ほとんど夫」の割合が父母ともに約3割（父28.5%、母28.5%）となっている。（報告書 p. 201 図Ⅲ-6-1）

図Ⅲ-6-1 夫婦の家事・育児分担（項目別）



(注) 両親世帯のうち、調査票②（子育てに関する養育者の意識）について夫婦ともに回答のあった2,239世帯の父母について集計した。

(注) ※は、「該当なし」の選択肢を設けて調査を実施している。「該当なし」の回答分については、上記グラフでは「無回答」分とまとめて集計している。

2 夫婦の家事・育児分担についての現実と理想のギャップの有無

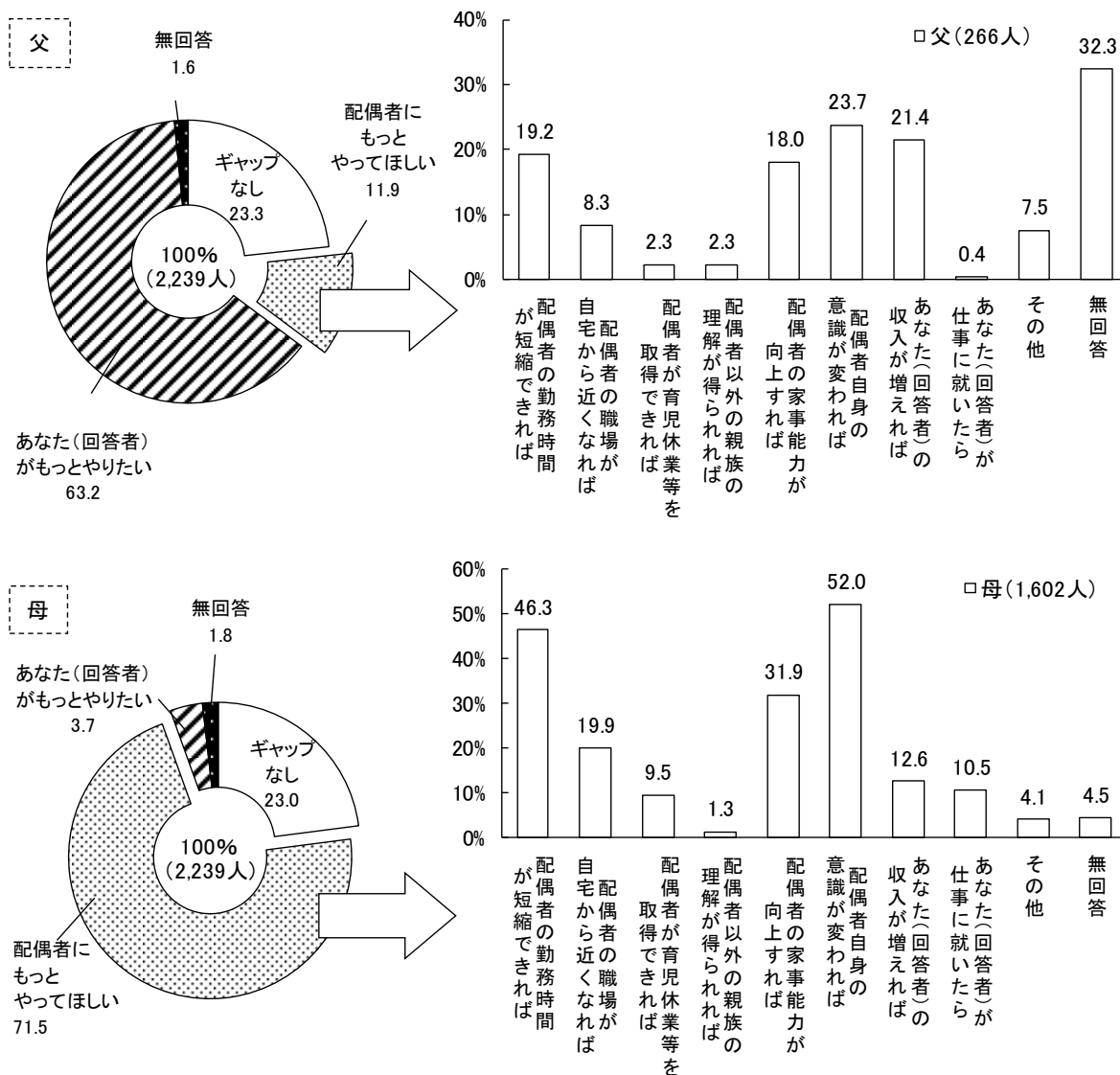
(1) 夫婦の家事・育児分担についての現実と理想のギャップの有無及び配偶者にもっと家事・育児をやってもらうための条件〔複数回答〕

「配偶者にもっとやってほしい」の割合は、父は約1割、母は約7割

配偶者のいる父母(4,478人)の家事・育児分担についての現実と理想のギャップをみると、「配偶者にもっとやってほしい」の割合は、父が11.9%、母が71.5%となっている。

また、「配偶者にもっとやってほしい」と回答した父母(父266人、母1,602人)に、配偶者にもっと家事・育児をやってもらうための条件を聞いたところ、父母とも「配偶者自身の意識が変われば」の割合が最も高くなっている(父23.7%、母52.0%)。次いで、父は「あなた(回答者)の収入が増えれば」の割合が21.4%、母は「配偶者の勤務時間が短縮できれば」の割合が46.3%となっている。(報告書 p.209 図Ⅲ-6-6)

図Ⅲ-6-6 夫婦の家事・育児分担についての現実と理想のギャップの有無及び配偶者にもっと家事・育児をやってもらうための条件〔複数回答〕



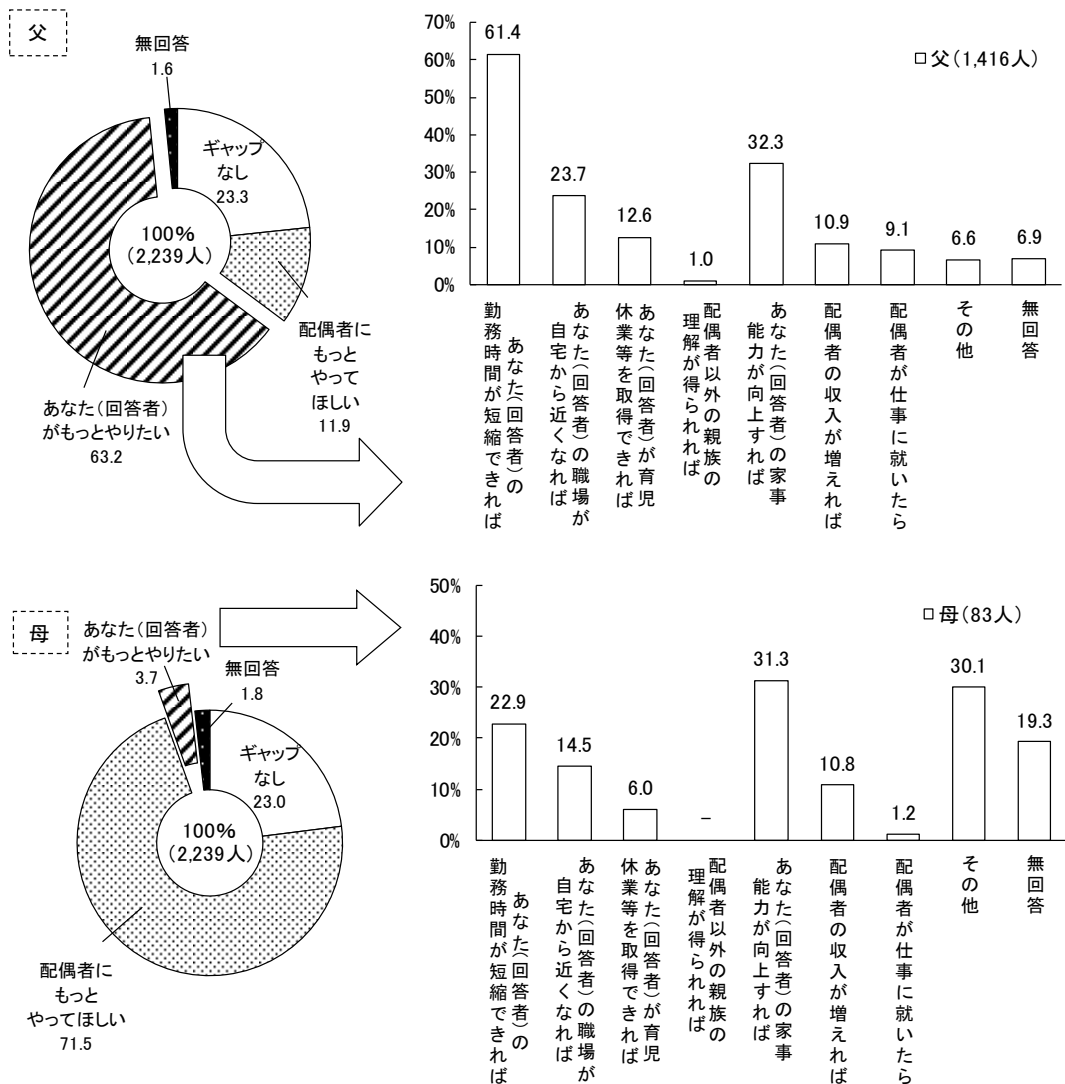
(2) 夫婦の家事・育児分担についての現実と理想のギャップの有無及び自分がもっと家事・育児をやるための条件〔複数回答〕

「あなた（回答者）がもっとやりたい」の割合は、父が6割超

配偶者のいる父母（4,478人）の家事・育児分担についての現実と理想のギャップをみると、「あなた（回答者）がもっとやりたい」の割合は、父が63.2%、母が3.7%となっている。

「あなた（回答者）がもっとやりたい」と回答した父母（父1,416人、母83人）に、自分がもっと家事・育児をやるための条件を聞いたところ、父は「あなた（回答者）の勤務時間が短縮できれば」の割合が61.4%で最も高く、次いで「あなた（回答者）の家事能力が向上すれば」が32.3%となっている。母は「あなた（回答者）の家事能力が向上すれば」の割合が31.3%で最も高く、次いで「あなた（回答者）の勤務時間が短縮できれば」が22.9%となっている。（報告書 p. 211 図Ⅲ-6-7）

図Ⅲ-6-7 夫婦の家事・育児分担についての現実と理想のギャップの有無及び自分がもっと家事・育児をやるための条件〔複数回答〕



第7章 東京都の子供・子育て支援の施策が充実していると思うか

1 東京都の子供・子育て支援の施策が充実していると思うか

(1) 東京都の子供・子育て支援の施策が充実していると思うかー父母別

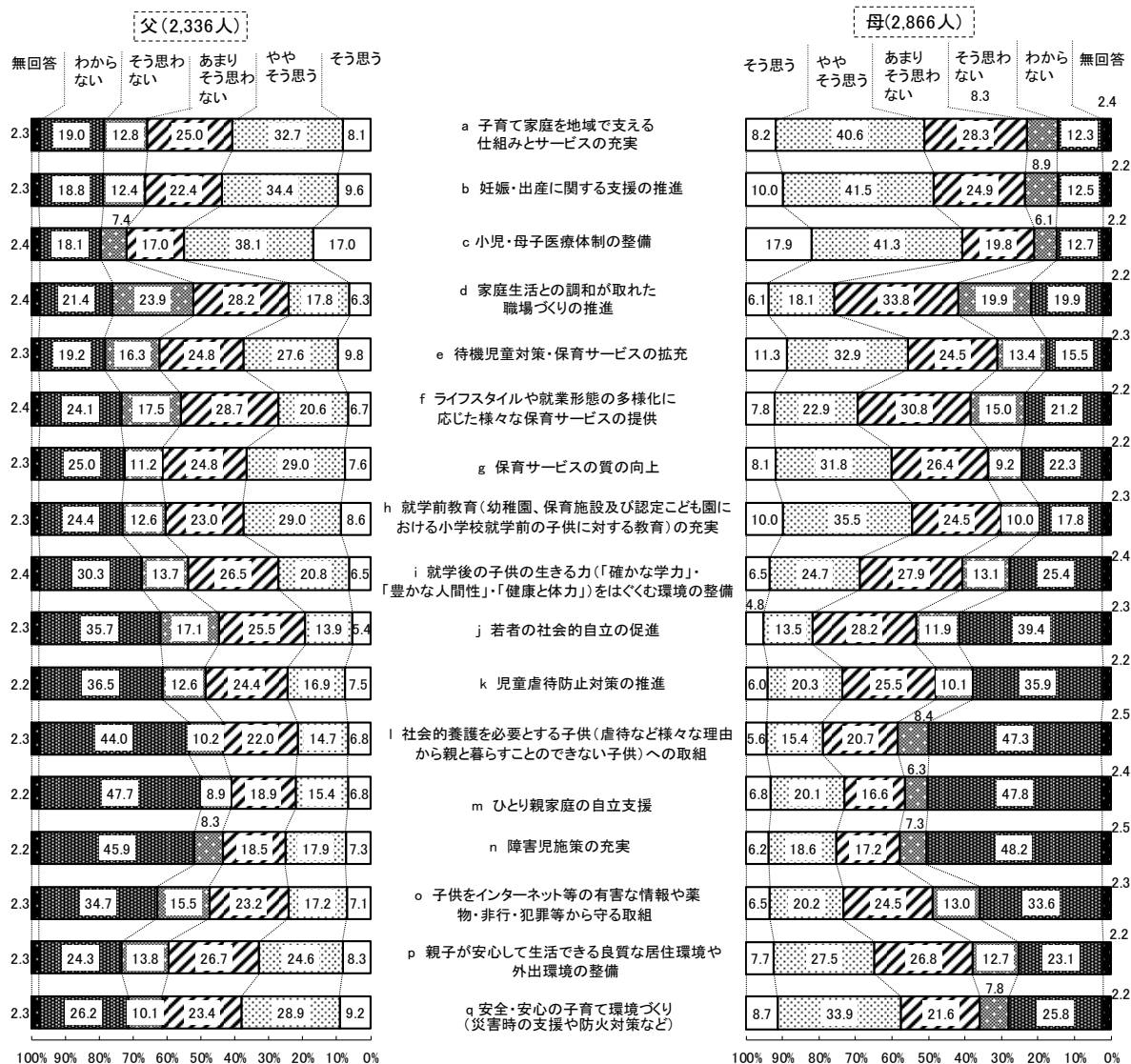
「そう思う」の割合は、父母ともに「小児・母子医療体制の整備」が最も高い

東京都が取り組んでいる子供・子育て支援施策について、充実していると思うかを父母別にみると、「そう思う」の割合は、父母ともに「小児・母子医療体制の整備」が最も高く（父 17.0%、母 17.9%）、次いで、父母ともに「待機児童対策・保育サービスの拡充」が高くなっている（父 9.8%、母 11.3%）。

一方、「そう思わない」の割合は、父母ともに「家庭生活との調和が取れた職場づくりの推進」が最も高く（父 23.9%、母 19.9%）、次いで、父母ともに「ライフスタイルや就業形態の多様化に応じた様々な保育サービスの提供」（父 17.5%、母 15.0%）となっている。

（報告書 p. 214 図Ⅲ-7-2）

図Ⅲ-7-2 東京都の子供・子育て支援の施策が充実していると思うかー父母別



第4部 子供の意識

第1章 調査対象者の概況

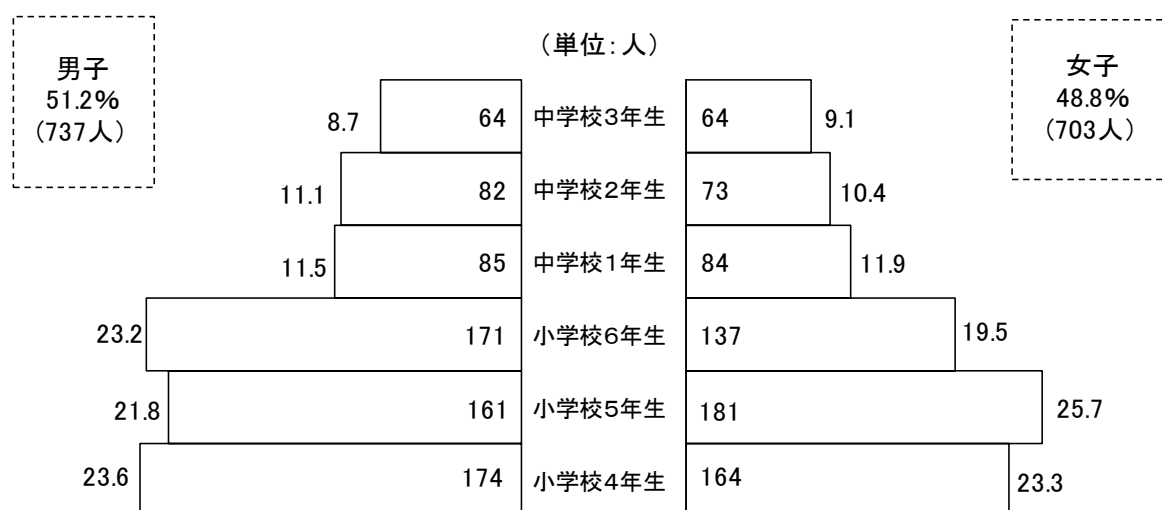
小学生までの子供を養育する両親世帯 4,800 世帯と 20 歳未満の子供を養育するひとり親世帯 1,200 世帯のうち、集計対象世帯 3,013 世帯に属する小学校4年生から中学校3年生までの子供 1,618 人の中で回答のあった 1,440 人の子供の状況と意識について述べる。

1 子供の状況

(1) 性・学年別—性・学年別

回答のあった子供を性・学年別にみると、男子が 737 人 (51.2%)、女子が 703 人 (48.8%) となっている。男子のうち小学生は 506 人、中学生は 231 人で、女子のうち小学生は 482 人、中学生は 221 人となっている。(報告書 p. 229 図IV-1-1)

図IV-1-1 子供の状況—性・学年別



第2章 子供の興味、未来や将来についての考え

1 興味や関心があること

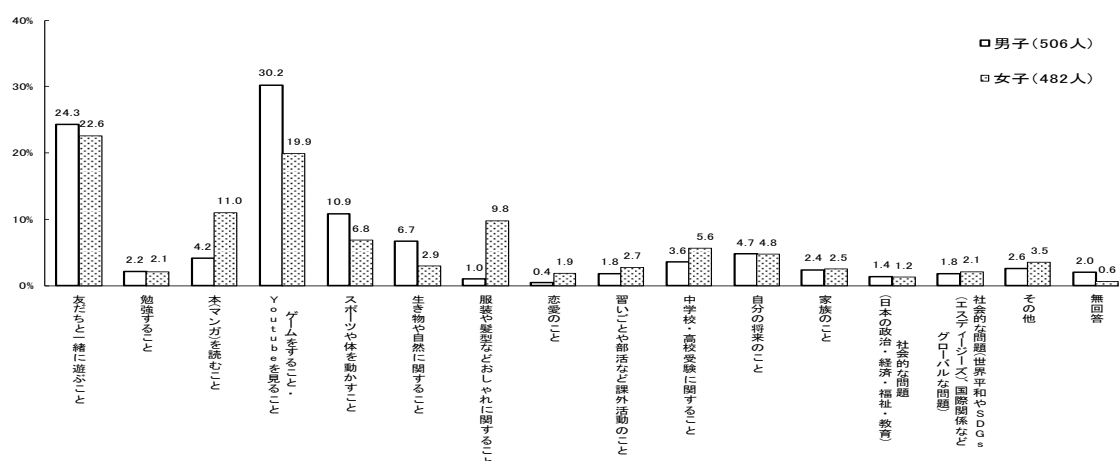
(1) 最も興味や関心があること一性・学校区分別

男子は小学生、中学生ともに「ゲームをすること・YouTube を見ること」が最も高く、女子は「友だちと一緒に遊ぶこと」が最も高い

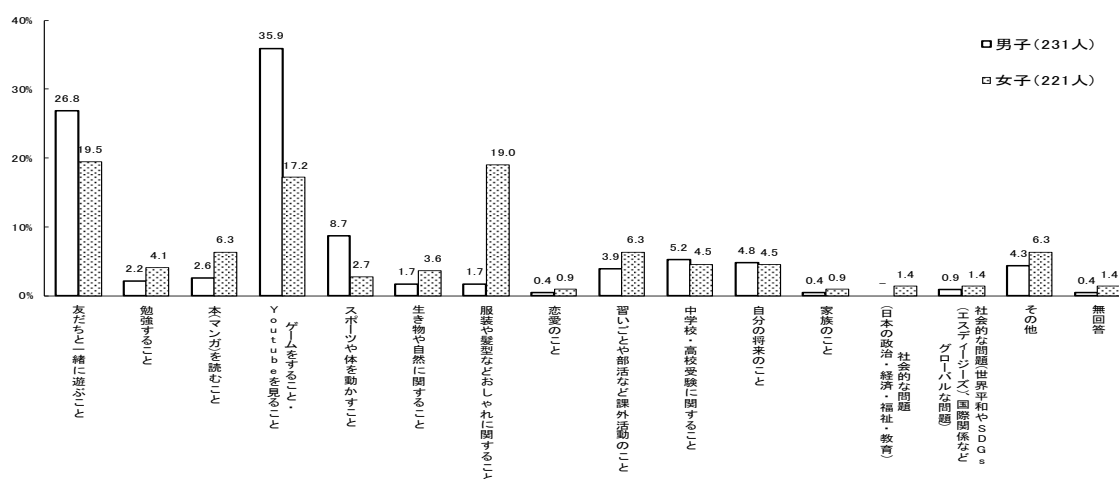
今、興味や関心があることの中から、最も興味や関心があることを一つだけ回答してもらったところ、男子は小学生、中学生ともに「ゲームをすること・YouTube を見ること」の割合が最も高く、小学生が30.2%、中学生が35.9%となっている。次いで、小学生、中学生ともに「友だちと一緒に遊ぶこと」、「スポーツや体を動かすこと」が高く、小学生はそれぞれ24.3%、10.9%、中学生はそれぞれ26.8%、8.7%となっている。

一方、女子は小学生、中学生ともに「友だちと一緒に遊ぶこと」が最も多く、小学生が22.6%、中学生が19.5%となっている。小学生については、次いで「ゲームをすること・YouTube を見ること」、「本（マンガ）を読むこと」が高く19.9%、11.0%となっている。中学生については、次いで「服装や髪型などおしゃれに関すること」、「ゲームをすること・YouTube を見ること」で19.0%、17.2%となっている。（報告書 p. 236 図IV-2-3、図IV-2-4）

図IV-2-3 最も興味や関心があること一性・学校区分別（小学生）



図IV-2-4 最も興味や関心があること一性・学校区分別（中学生）



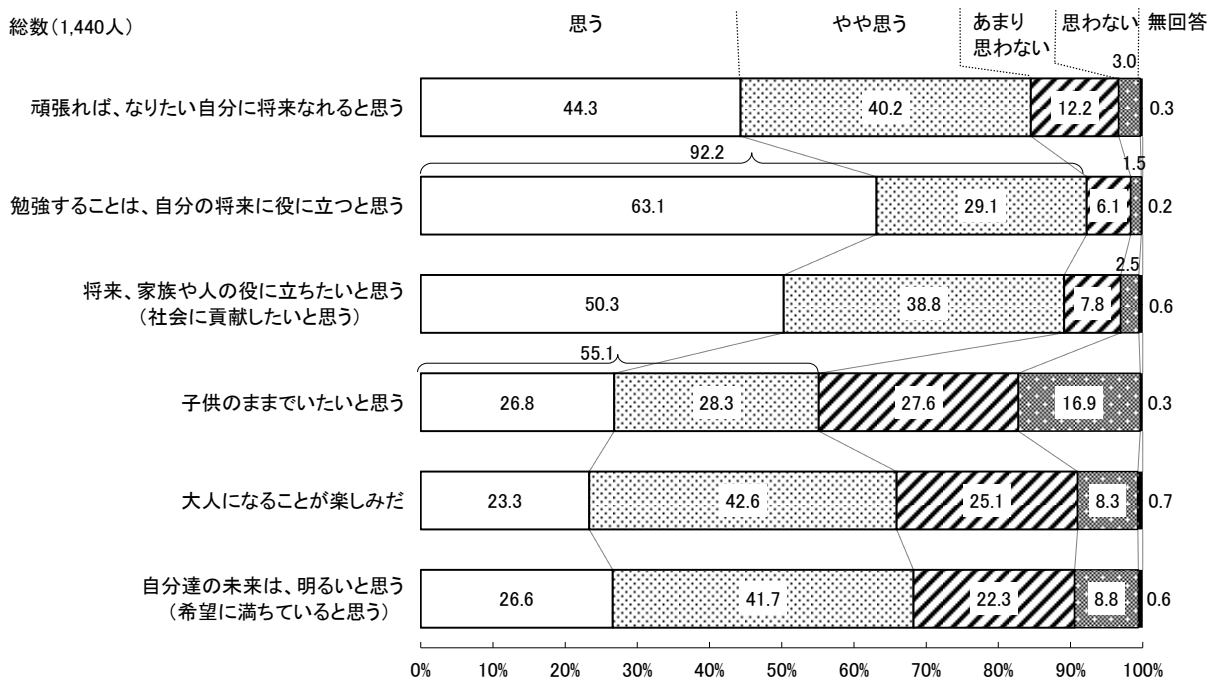
2 自分の未来や大人になることについての考え

(1) 自分の未来や大人になることについての考え

「勉強することは、自分の将来に役に立つと思う」について、「思う」と「やや思う」を合わせた割合は約9割。

自分の未来や大人になることについて、どのように考えているか聞いたところ、「勉強することは、自分の将来に役に立つと思う」について、「思う」と「やや思う」を合わせた割合は92.2%となっている。一方で、「子供のままでいたいと思う」について、「思う」と「やや思う」を合わせた割合は、55.1%となっている（報告書 p. 238 図IV-2-6）。

図IV-2-6 自分の未来や大人になることについての考え



第3章 不安や悩みの内容、相談相手について

1 不安や悩みを感じること

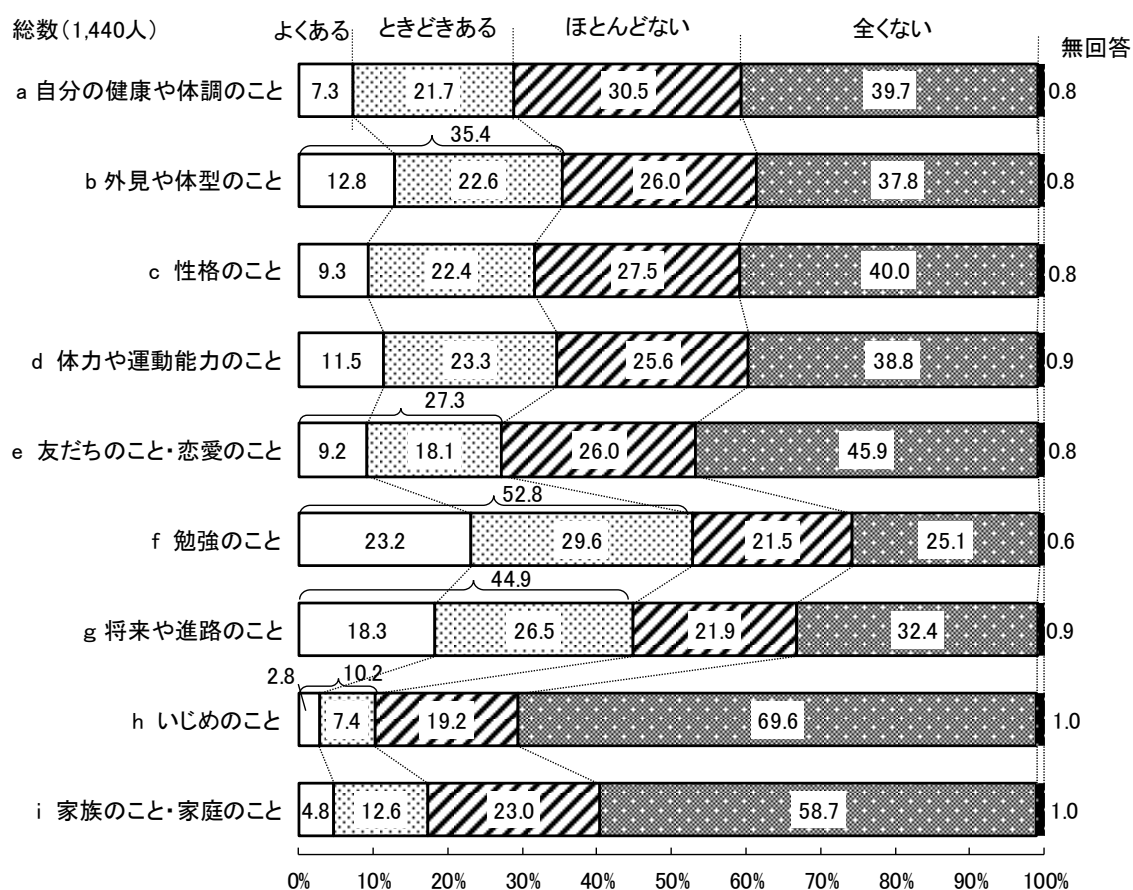
(1) 不安や悩みを感じること

「勉強のこと」で「よくある」、「ときどきある」と回答した子供は5割超。「友だちのこと・恋愛のこと」で「よくある」「ときどきある」と回答した子供の割合は2割超。

以下の項目について、不安や悩みを感じるかどうか聞いたところ、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合が最も高いのは「勉強のこと」で52.8%、次いで「将来や進路のこと」が44.9%、「外見や体型のこと」が35.4%となっている。

一方、「友だちのこと・恋愛のこと」について「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は27.3%、「いじめのこと」で「よくある」「ときどきある」を合わせた割合は10.2%となっている。（報告書 p. 241 図IV-3-1）

図IV-3-1 不安や悩みを感じること



(2) 不安や悩みを感じること一性・学校区分別

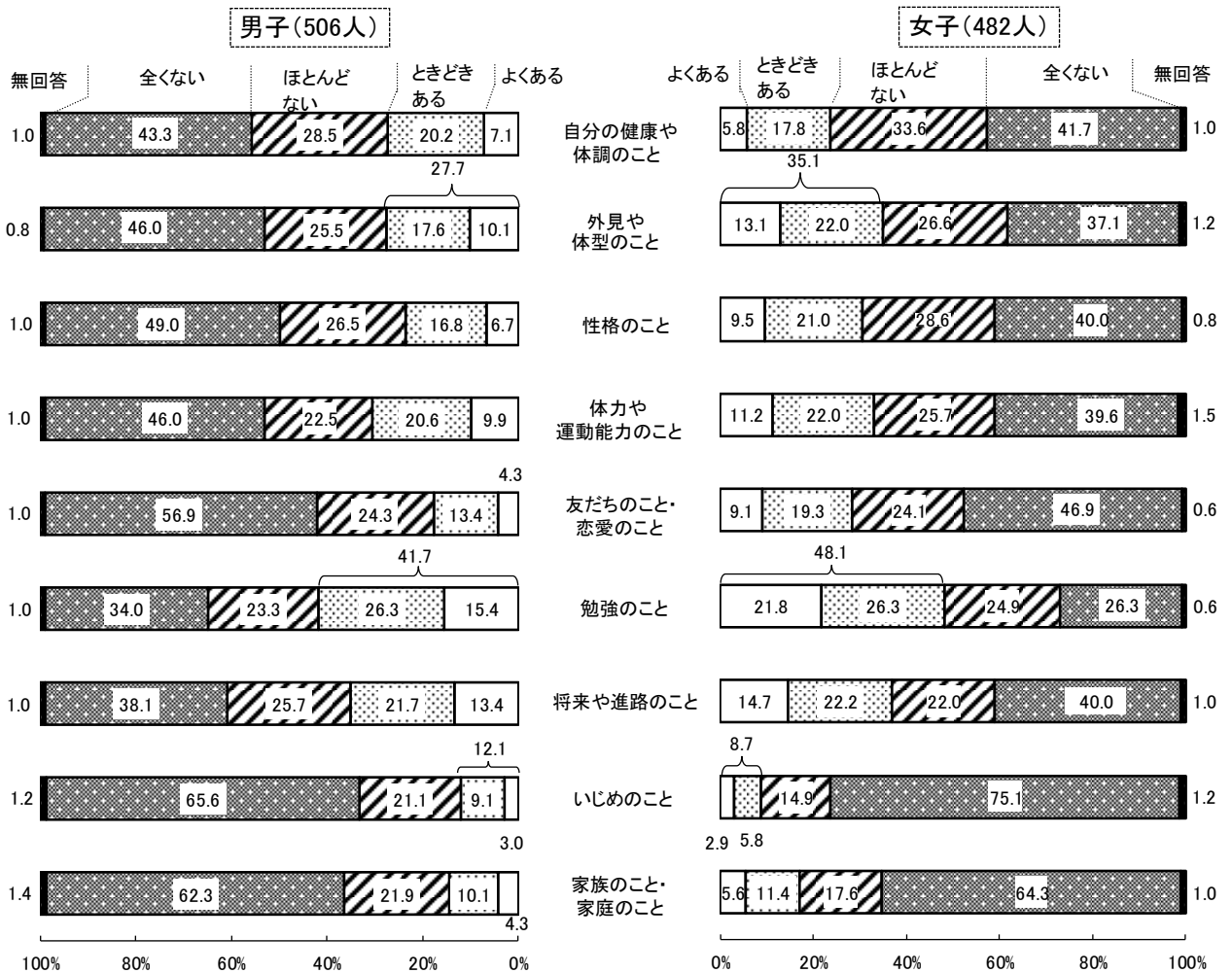
「勉強のこと」で「よくある」、「ときどきある」と回答した子供の割合が高く、「いじめのこと」では、「ほとんどない」「全くない」と回答した子供の割合が高い。

不安や悩みを感じることについて「よくある」「ときどきある」を合わせた割合が最も高いのは、小学生の男女、中学生の男女いずれも「勉強のこと」となっている。性・学校区分別にみると、小学生は男子が41.7%、女子が48.1%なのに対し、中学生は男子が64.5%、女子が76.0%と、それぞれ22.8ポイント、27.9ポイント高くなっている。

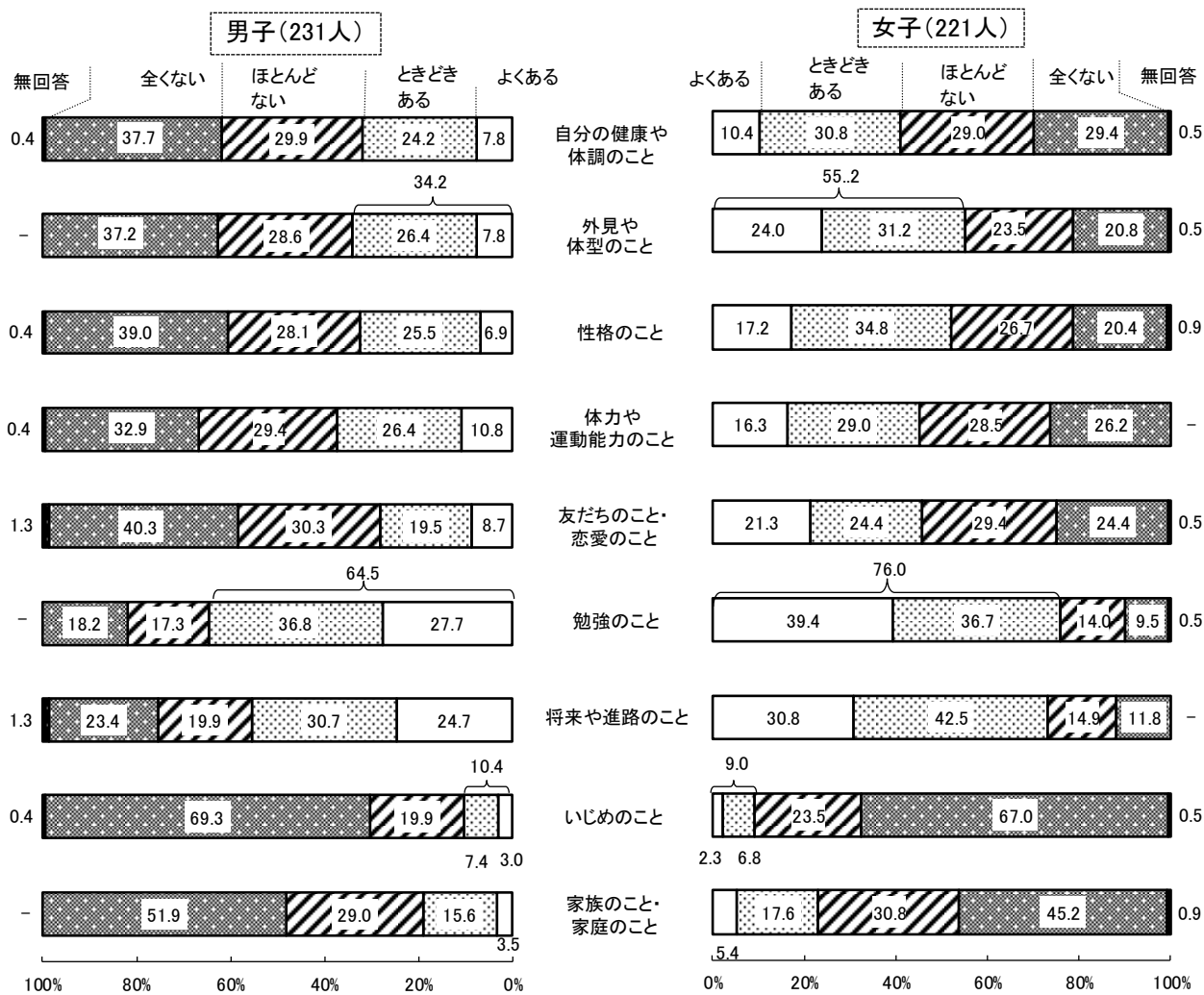
また、「外見や体型のこと」で「よくある」、「ときどきある」を合わせた割合をみると、男子は小学生が27.7%、中学生が34.2%なのに対し、女子は小学生が35.1%、中学生が55.2%となっており、女子の方がそれぞれ7.4ポイント、21.0ポイント高くなっている。

「いじめのこと」について、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は、小学生は男子が12.1%、女子が8.7%、中学生は男子が10.4%、女子が9.0%となっている。(報告書 p. 243 図IV-3-4、p. 244 図IV-3-5)

図IV-3-4 不安や悩みを感じること一性・学校区分別（小学生）



図IV-3-5 不安や悩みを感じること一性・学校区分別（中学生）



2 心配ごとや悩みごとができた場合の相談相手

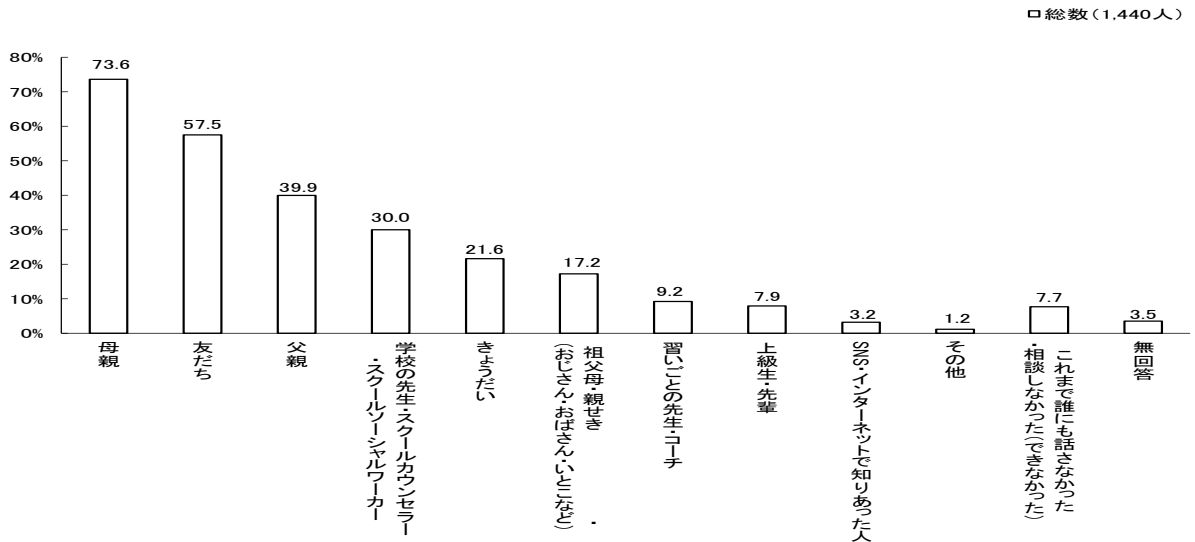
(1) これまでに話を聞いてもらった人や相談した人〔複数回答〕

「母親」が最も多く7割超。一方、父親は約4割。

これまでに話を聞いてもらったり、相談した人を聞いたところ、「母親」と回答した割合が73.6%で最も高く、次いで「友だち」が57.5%、「父親」が39.9%となっている。

(報告書 p. 248 図IV-3-7)

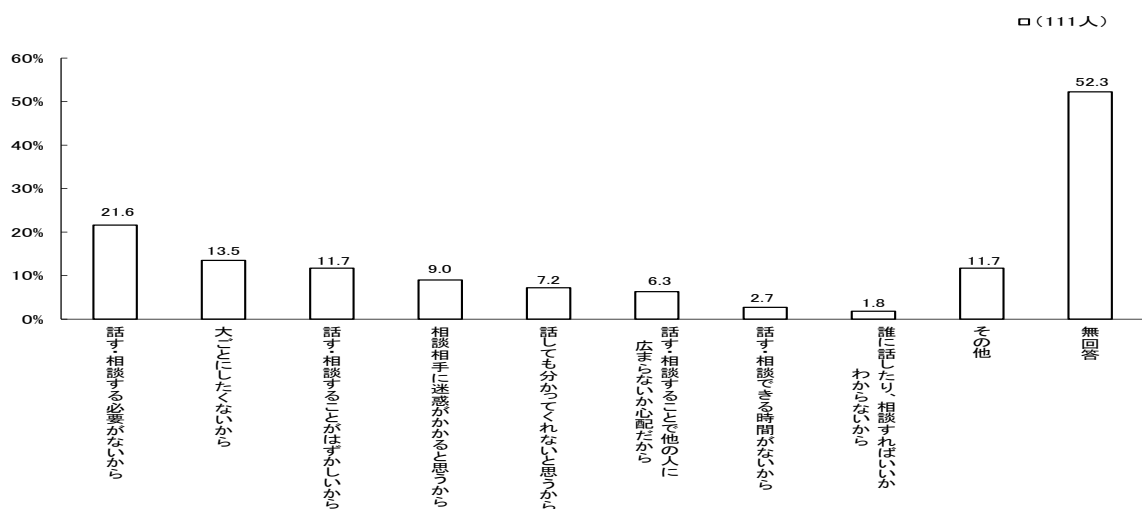
図IV-3-7 これまでに話を聞いてもらった人や相談した人〔複数回答〕



(2) これまで誰にも話さなかった・相談しなかった理由〔複数回答〕

「これまで誰にも話さなかった・相談しなかった(できなかった)」と回答した子供(111人)にその理由を聞いたところ、最も多かったのは「話す・相談する必要があるから」で21.6%、次いで「大ごとにしたくないから」で13.5%となっている。(報告書 p. 248 図IV-3-8)

図IV-3-8 誰にも話さなかった・相談しなかった理由〔複数回答〕

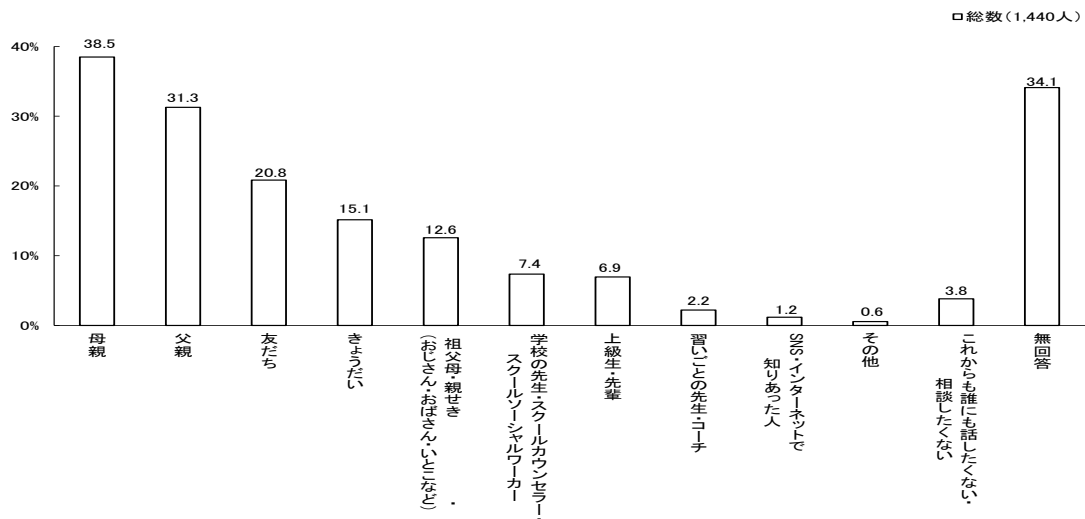


(3) 本当は話を聞いてもらいたい人や相談したい人〔複数回答〕

「父親」が約3割、「友だち」が約2割

本当は話を聞いてもらいたい人や相談したい人を聞いたところ、「母親」と回答した割合が38.5%で最も高く、次いで「父親」が31.3%、「友だち」が20.8%となっている。(報告書 p. 249 図IV-3-9)

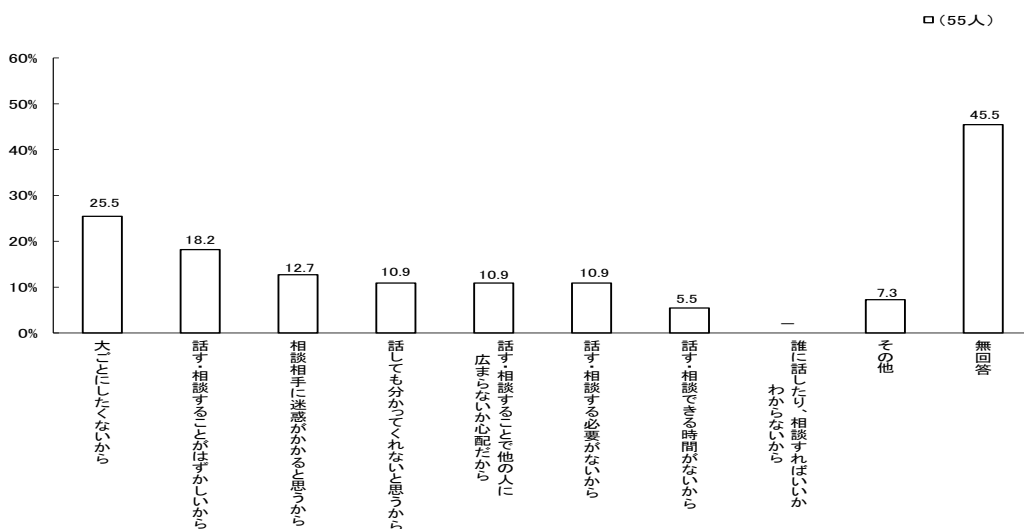
図IV-3-9 本当は話を聞いてもらいたい人や相談したい人〔複数回答〕



(4) これからも誰にも話したくない・相談したくない理由〔複数回答〕

「これからも誰にも話したくない・相談したくない」と回答した子供 55 人に、その理由を聞いたところ、最も多かったのは「大ごとにしたくないから」で25.5%、次いで「話す・相談することが恥ずかしいから」で18.2%となっている。(報告書 p. 249 図IV-3-10)

図IV-3-10 これからも誰にも話したくない・相談したくない理由〔複数回答〕



3 相談窓口等の認知度

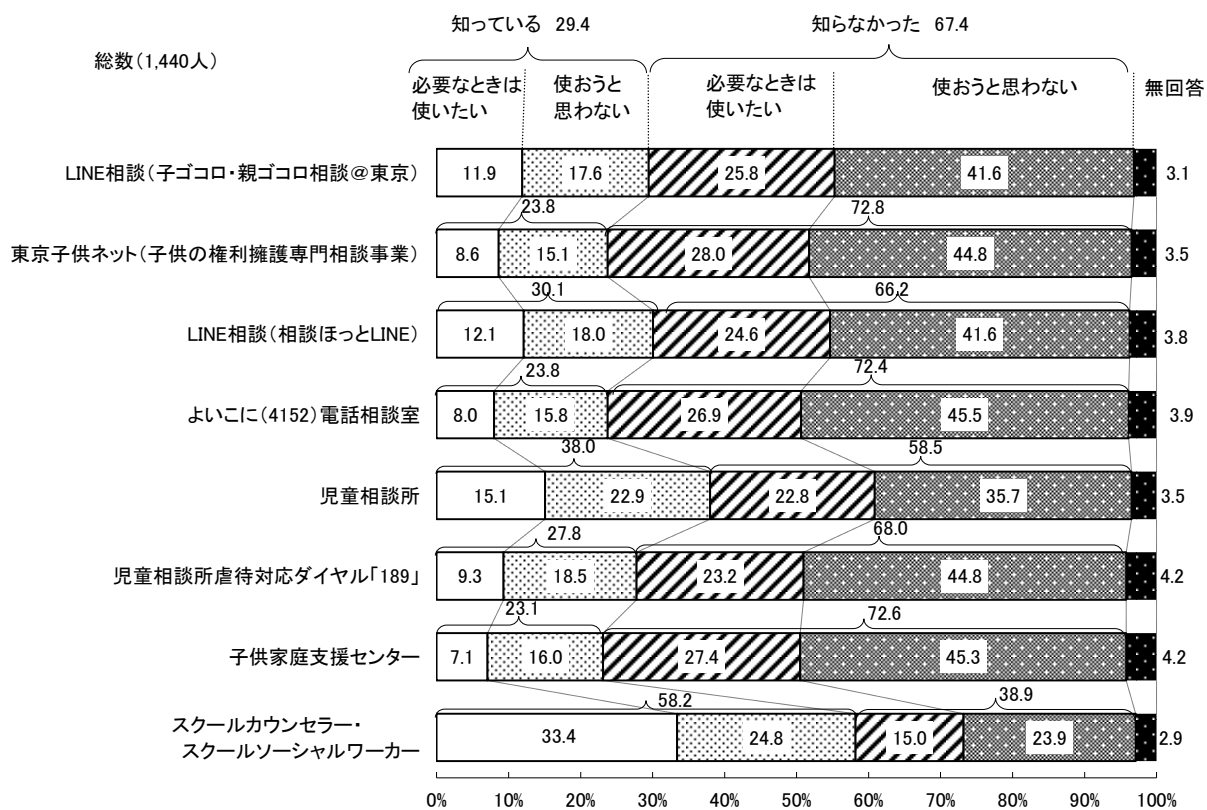
(1) 相談窓口等の認知度

「知っている」かつ「必要な時は使いたい」が最も高かったのは、「スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー」で3割超。

行政の相談窓口等について聞いたところ、「知っている」の割合が最も高かったのは「スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー」で58.2%、次いで「児童相談所」で38.0%となっている。一方で「知らなかった」が最も多かったのは「東京子供ネット（子供の権利擁護専門相談事業）」で72.8%、次いで「子供家庭支援センター」で72.6%となっている。

(報告書 p. 250 図IV-3-11)

図IV-3-11 相談窓口等の認知度



4 相談しやすい方法

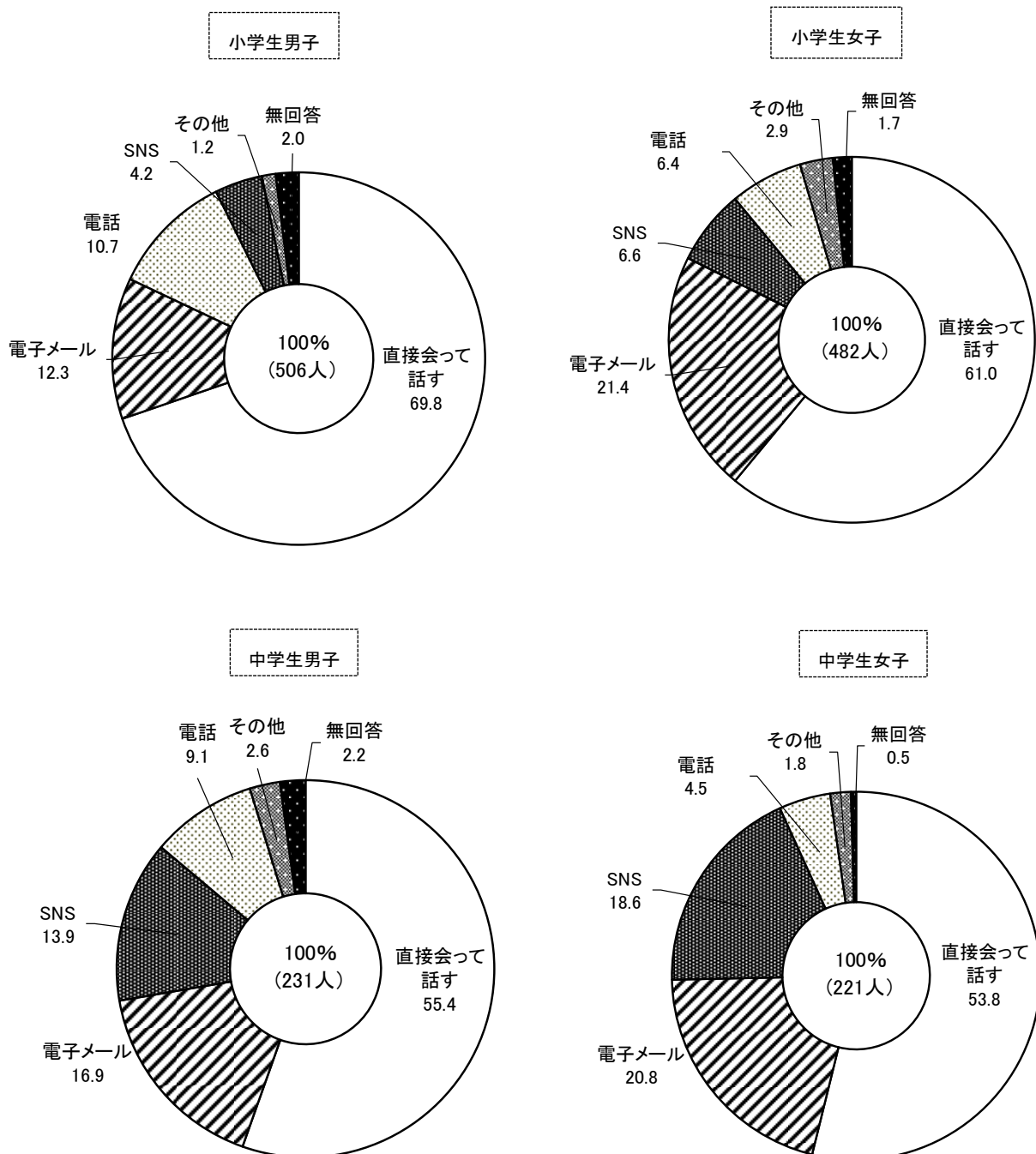
(1) 相談しやすい方法－性・学校区分別

どのような方法が相談しやすいかを性・学校区分別にみると、小学生（男子・女子）、中学生（男子・女子）ともに「直接会って話す」が最も高く、小学生は男子 69.8%、女子 61.0% となっているが、中学生は男子 55.4%、女子 53.8%と小学生よりそれぞれ 14.4 ポイント、7.2 ポイント低くなっている。

「SNS」は、小学生は男子 4.2%、女子 6.6%となっているが、中学生は男子 13.9%、女子は 18.6%と小学生よりそれぞれ 9.7 ポイント、12 ポイント高くなっている。

(報告書 p. 256 図IV-3-13)

図IV-3-13 相談しやすい方法－性・学校区分別



第4章 普段の生活等について

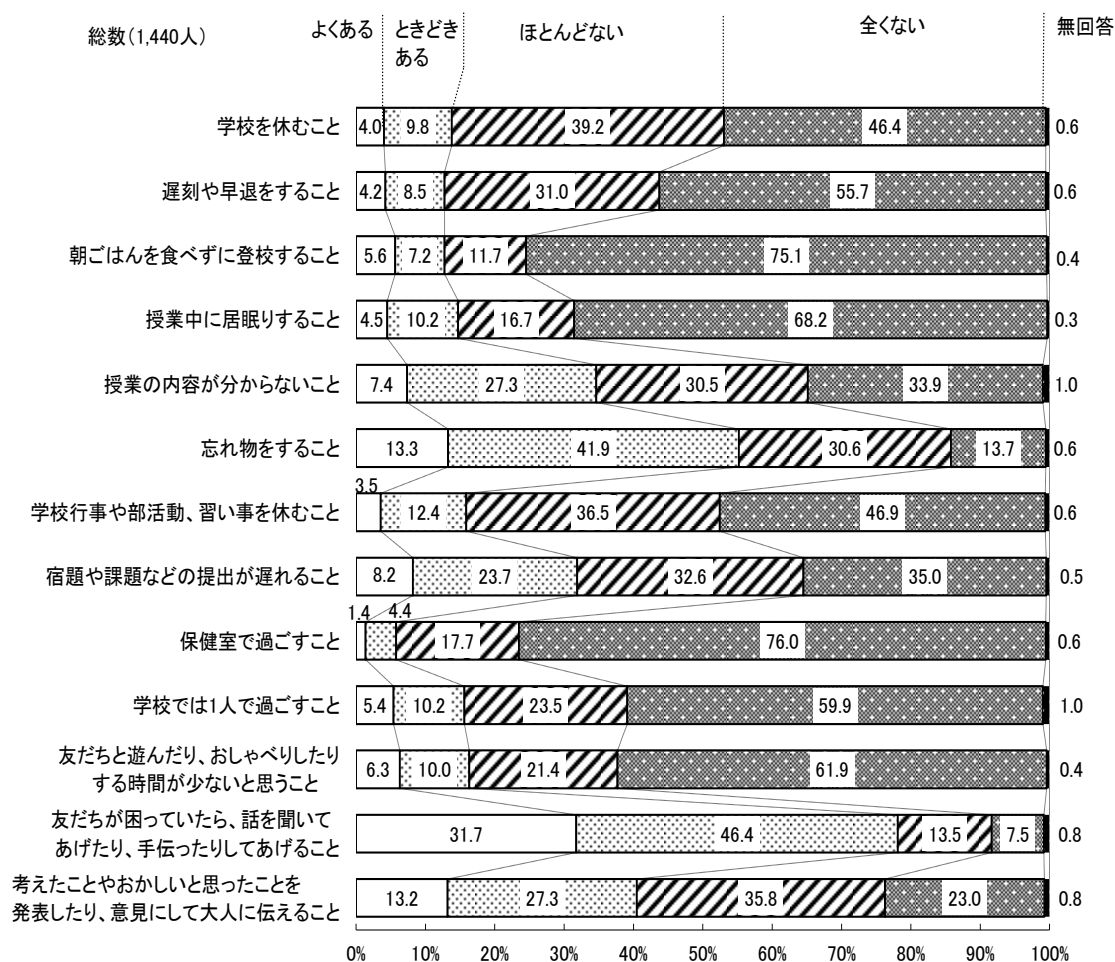
1 普段の学校生活

(1) 普段の学校生活

「友だちが困っていたら、話を聞いてあげたり、手伝ったりしてあげること」が「よくある」「ときどきある」を合わせた割合は7割超。

普段の学校生活での様子を聞いたところ、「友だちが困っていたら、話を聞いてあげたり、手伝ったりしてあげること」について、「よくある」が31.7%、「ときどきある」が46.4%となっている。一方、「忘れ物をすること」については、「よくある」が13.3%、「ときどきある」が41.9%となっている。（報告書 p. 257 図IV-4-1）

図IV-4-1 普段の学校生活

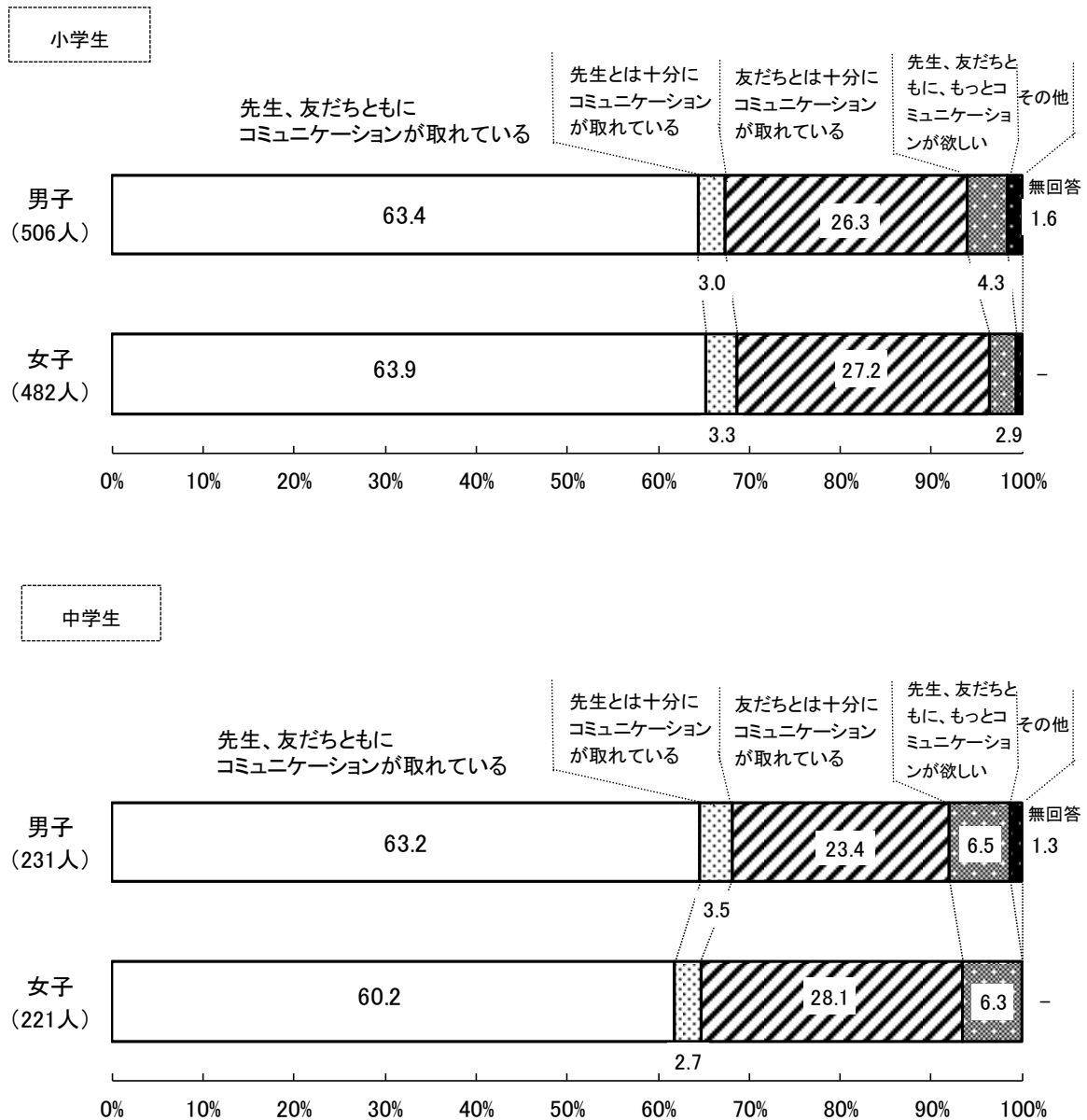


2 友だちや先生とのコミュニケーション

(1) 友だちや先生とのコミュニケーション—性・学校区分別

友だちや先生とのコミュニケーションについて性・学校区分別にみると、小学生（男子・女子）、中学生（男子・女子）ともに「先生、友だちともにコミュニケーションが取れている」が最も高く、小学生は男子が63.4%、女子が63.9%、中学生は男子が63.2%、女子が60.2%となっている。（報告書 p. 264 IV-4-6）

図IV-4-6 友だちや先生とのコミュニケーション—性・学校区分別



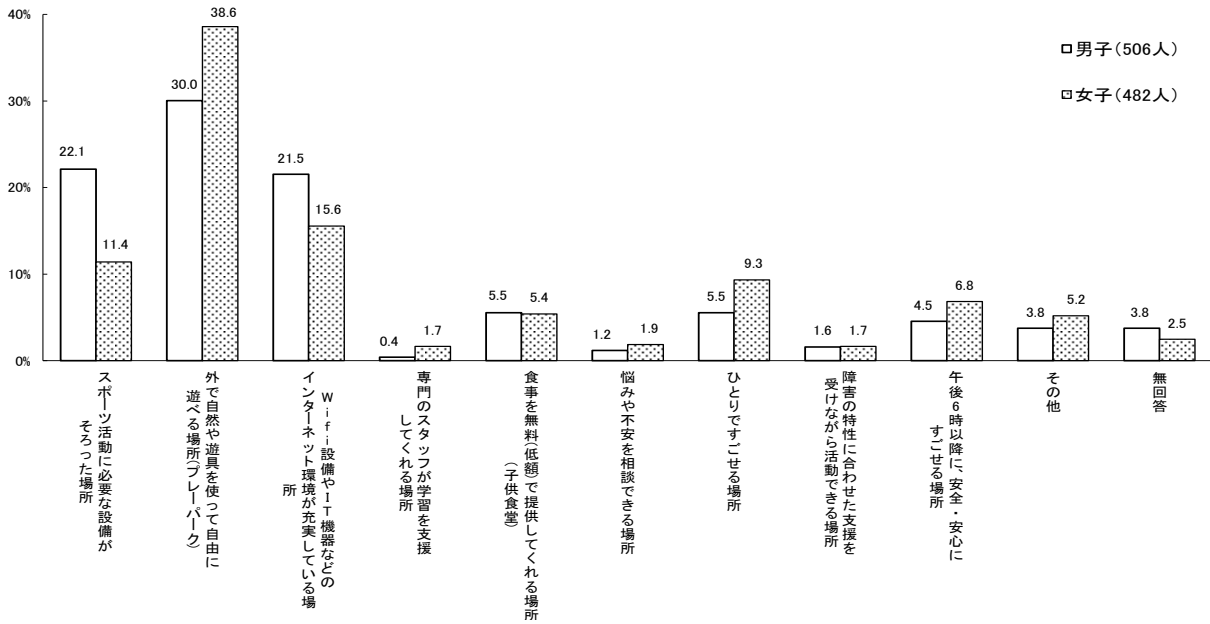
3 放課後や長期の休みにあったらいいなと思う場所

(1) 放課後や長期の休みに最もあったらいいなと思う場所－性・学校区分別

放課後や長期の休みに最もあったらいいなと思う場所について性・学校区分別にみると、小学生は「外で自然や遊具を使って自由に遊べる場所(プレーパーク)」が最も多く、男子が30.0%、女子が38.6%となっている。中学生は、「Wifi設備やIT機器などのインターネット環境が充実している場所」が最も多く、男子が29.0%、女子が24.0%となっている。(報告書 p.268 図IV-4-11、図IV-4-12)

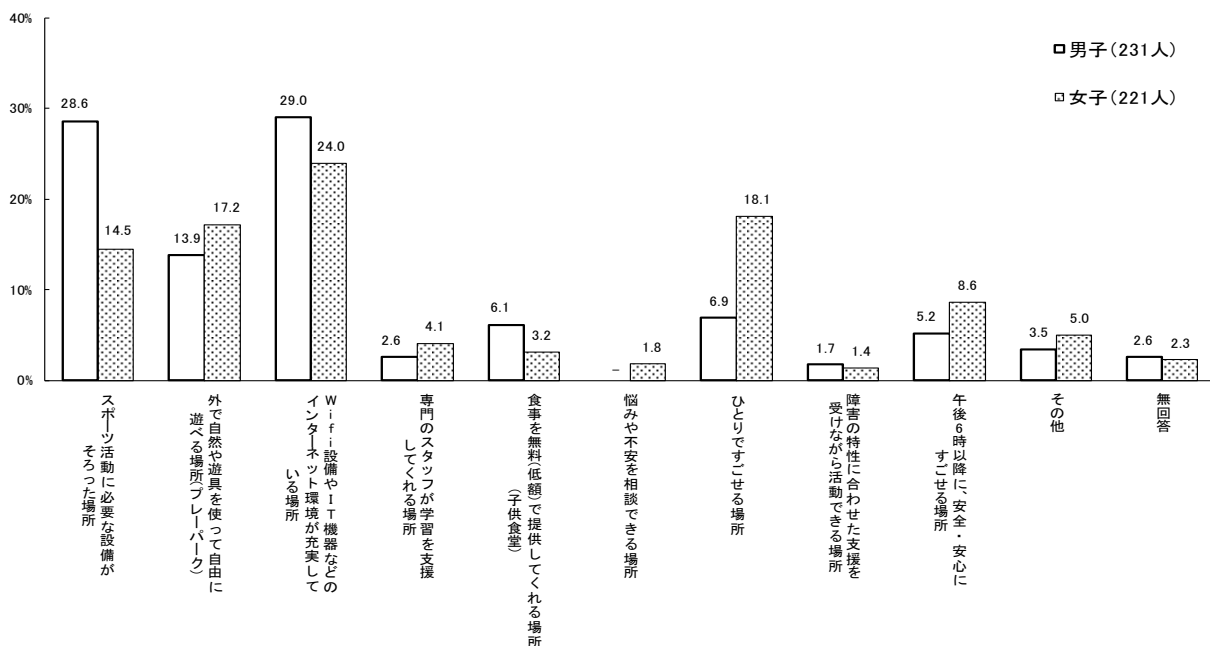
図IV-4-11 放課後や長期の休みに最もあったらいいなと思う場所

－性・学校区分別（小学生）



図IV-4-12 放課後や長期の休みに最もあったらいいなと思う場所

－性・学校区分別（中学生）

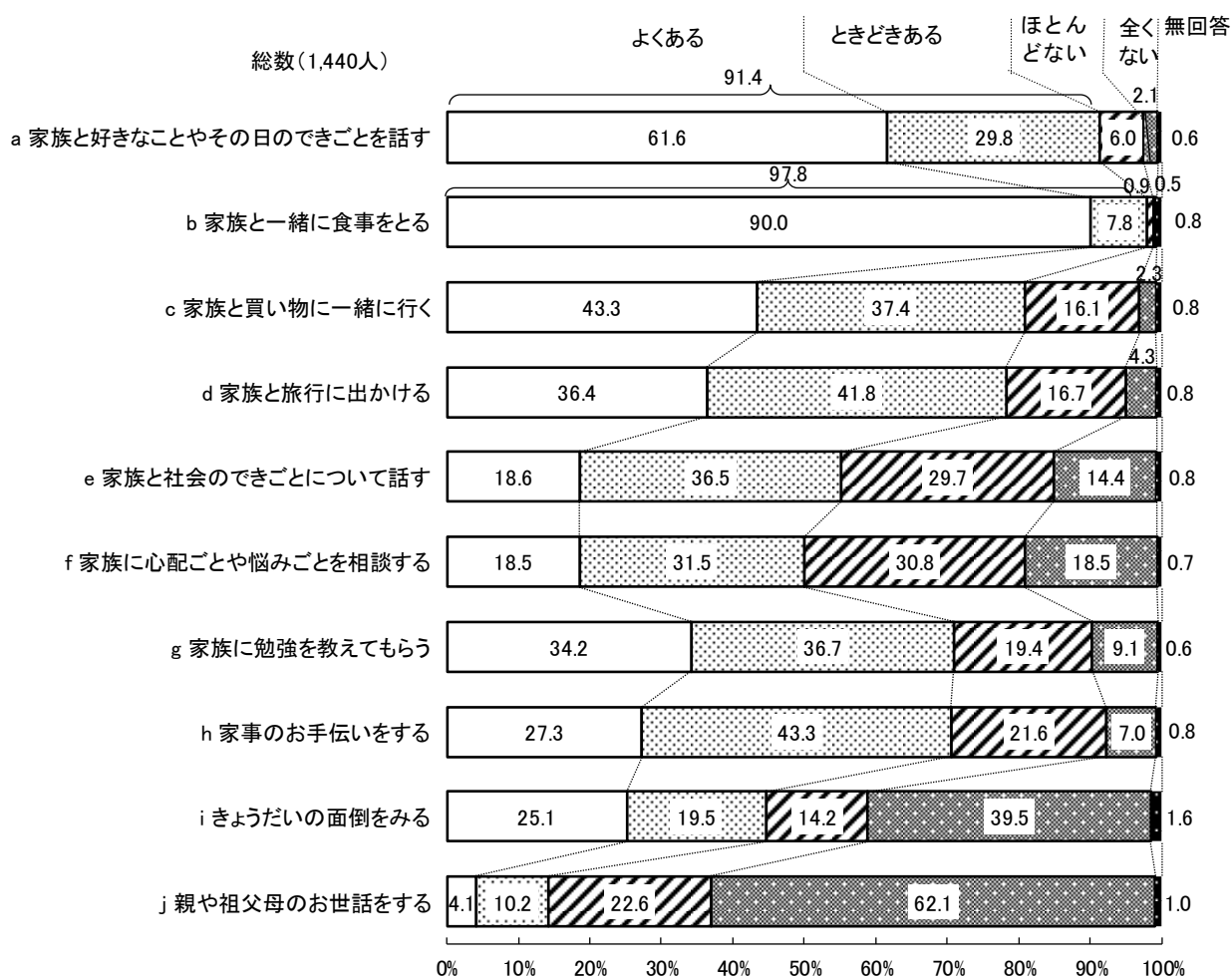


4 家庭での普段の生活
 (1) 家庭での普段の生活

「家族と一緒に食事をする」、「家族と好きなことやその日のできごとを話す」について、「よくある」「ときどきある」の割合は9割超

家庭での普段の生活について聞いたところ、「よくある」「ときどきある」を合わせた割合が最も高いのは「家族と一緒に食事をする」で97.8%、次いで「家族と好きなことやその日のできごとを話す」で91.4%となっている。(報告書 p. 269 図IV-4-13)

図IV-4-13 家庭での普段の生活

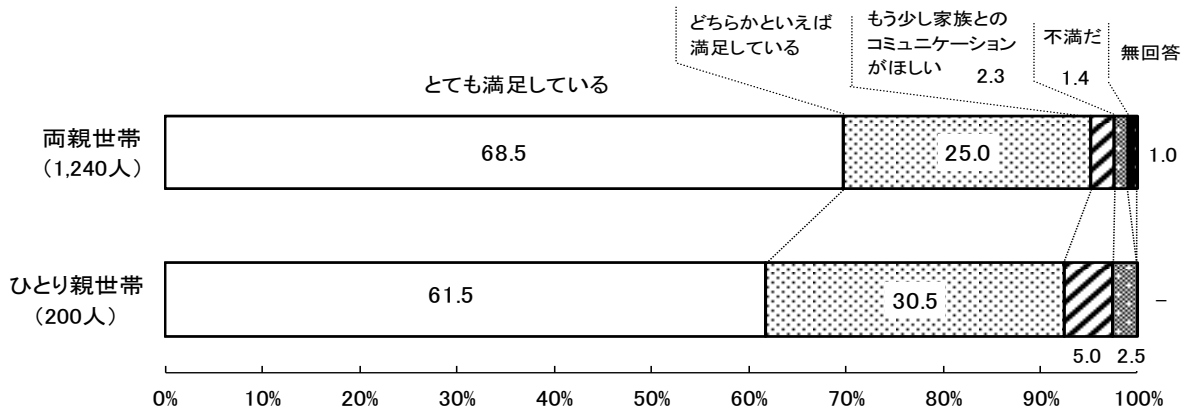


5 家族とのコミュニケーションの満足度

(1) 家族とのコミュニケーションの満足度－両親の有無別

家族とのコミュニケーションの満足度について両親の有無別にみたところ、「とても満足している」は、両親世帯が68.5%、ひとり親世帯が61.5%となっており、両親世帯が7.0ポイント上回っている。「もう少し家族とのコミュニケーションが欲しい」は、両親世帯が2.3%、ひとり親世帯が5.0%となっている。（報告書 p. 277 図IV-4-18）

図IV-4-18 家族とのコミュニケーションの満足度－両親の有無別



(2) 家族とのコミュニケーションの満足度－共働きの状況別

家族とのコミュニケーションの満足度について、共働きの状況別にみたところ、「とても満足している」は、共働き世帯が66.9%、共働きでない世帯が69.3%となっている。「もう少し家族とのコミュニケーションが欲しい」は、共働き世帯が2.2%、共働きでない世帯が2.8%となっている。（報告書 p. 277 図IV-4-19）

図IV-4-19 家族とのコミュニケーションの満足度－共働きの状況別

